

第 1 分科会

教育相談

第1分科会 教育相談に関する聴取事項の集約結果

主題 地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

1 教育相談の現状について(令和3年度実績を記入、表中の数値は回答機関数を表す)

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績 (未回答・未集計は0としてカウント)

① 来所相談の総件数及び総回数

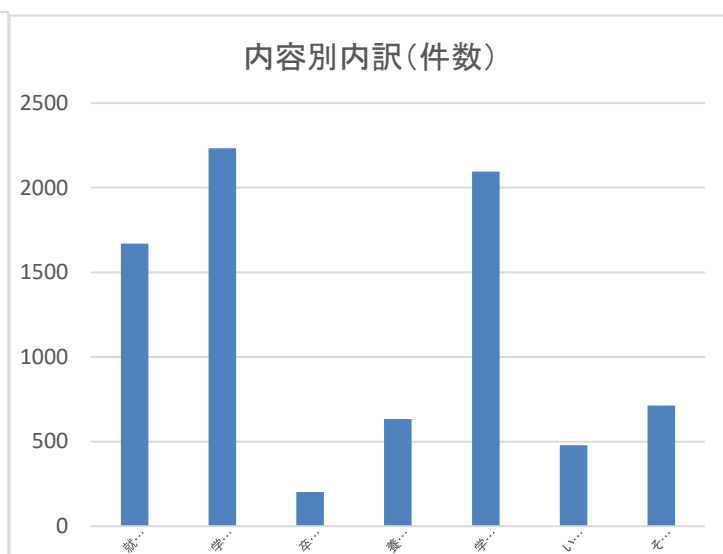
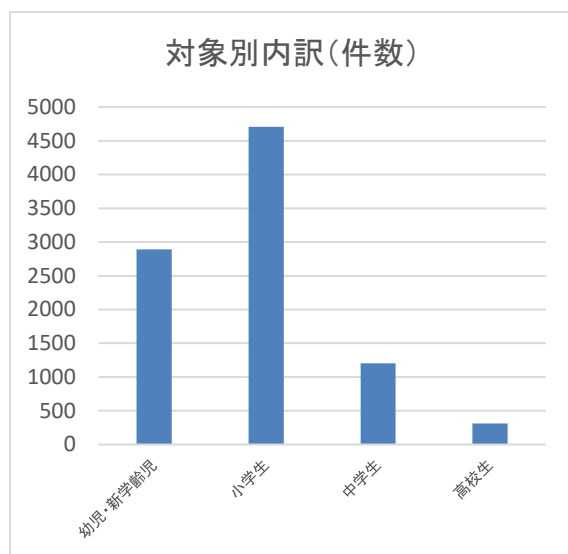
来所相談	件数・回数	0 または未回答	1～100	101～200	201～500	501～1000	1001～2000	2001以上	計
総件数について		19	24	5	8	0	4	0	10,203
総回数について		17	14	9	8	5	3	4	36,688

② 対象別内訳

対象	件数・回数	0 または未回答	1～100	101～200	201～300	301～400	401～500	501以上	計
幼児・新学齢児	件数	34	20	2	1	1	0	2	2,892
	回数	35	19	2	1	0	0	3	5,332
小学生	件数	23	28	2	1	3	1	2	4,709
	回数	23	21	6	3	0	0	7	13,685
中学生	件数	21	34	4	1	0	0	0	1,202
	回数	23	26	6	3	1	0	1	3,888
高校生	件数	30	30	0	0	0	0	0	313
	回数	29	27	1	2	1	0	0	1,408

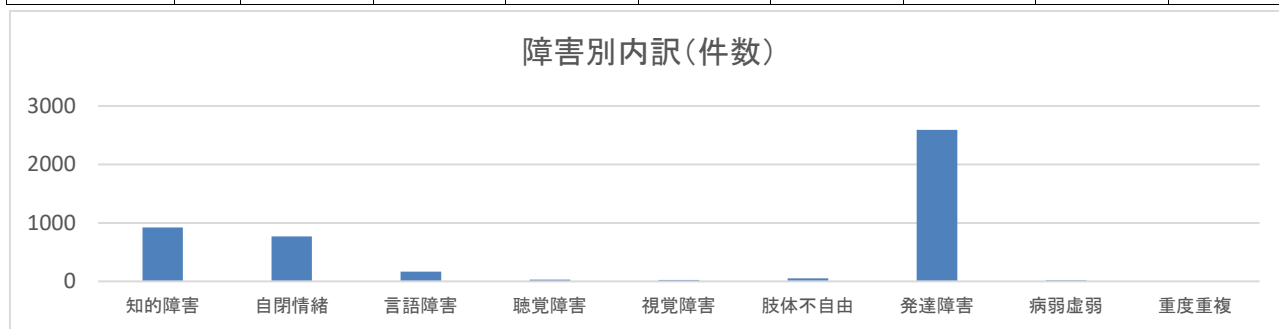
③ 内容別内訳

内容	件数・回数	0 または未回答	1～100	101～200	201～300	301～400	401～500	501以上	計
就学先・進学	件数	41	15	1	1	1	0	1	1,670
	回数	42	13	1	2	0	0	2	2,662
学習・指導法	件数	32	21	2	2	1	2	1	2,234
	回数	34	20	2	0	0	0	4	5,102
卒業・進路	件数	42	17	1	0	0	0	0	202
	回数	41	17	1	0	1	0	0	721
養育・家庭生活	件数	38	20	1	1	0	0	0	634
	回数	38	18	3	0	1	0	0	1,254
学校生活 (対人関係等)	件数	33	23	1	0	1	1	1	2,096
	回数	35	16	6	1	0	1	1	3,133
いじめ・不登校	件数	41	19	1	0	0	0	0	479
	回数	43	14	2	0	1	0	0	935
その他	件数	36	21	3	0	0	0	0	713
	回数	38	20	1	0	0	0	1	1,152



④障害別内訳

障害	件数・回数	0 または未回答							計
		1～100	101～200	201～300	301～400	401～500	501以上		
知的障害	件数	33	24	2	1	0	0	0	920
	回数	33	20	6	0	0	0	1	2,620
自閉症・ 情緒障害	件数	33	25	2	0	0	0	0	771
	回数	32	18	5	0	3	1	1	4,613
言語障害	件数	48	12	0	0	0	0	0	166
	回数	48	10	0	1	1	0	0	675
聴覚障害	件数	48	12	0	0	0	0	0	30
	回数	48	12	0	0	0	0	0	112
視覚障害	件数	52	8	0	0	0	0	0	25
	回数	53	7	0	0	0	0	0	43
肢体不自由	件数	48	12	0	0	0	0	0	50
	回数	48	11	1	0	0	0	0	176
発達障害	件数	29	28	1	0	0	0	2	2,591
	回数	29	22	3	2	1	0	3	4,423
病弱・ 身体虚弱	件数	51	9	0	0	0	0	0	21
	回数	52	8	0	0	0	0	0	44
重度・重複	件数	60	0	0	0	0	0	0	0
	回数	60	0	0	0	0	0	0	0



⑤来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

校種	件数・回数	0 または未回答							計
		1～100	101～200	201～300	301～400	401～500	501以上		
小学生	件数	27	26	1	1	2	1	2	3,748
	回数	30	20	4	1	1	1	3	8,372
中学生	件数	29	29	1	1	0	0	0	899
	回数	32	22	5	0	0	0	1	2,162
高校生	件数	35	25	0	0	0	0	0	262
	回数	35	20	4	0	1	0	0	1,240

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

対象	回数	0 または未回答							計
		1～100	101～200	201～300	301～400	401～500	501以上		
保護者	23	18	7	3	3	1	5	7,674	
関係教員	32	19	2	3	3	0	1	3,613	
本人	41	18	1	0	0	0	0	309	
その他	32	26	1	1	0	0	0	939	

② 電話相談の内容別内訳

対象	回数	0 または未回答							計
		1～100	101～200	201～300	301～400	401～500	501以上		
就学・進学	30	26	0	2	2	0	0	1,811	
学習・指導法	29	25	3	2	0	0	1	2,491	
学校生活(対人関係等)	33	21	5	0	0	0	1	1,609	
卒業・進路	40	20	0	0	0	0	0	269	
養育・家庭生活	32	26	1	1	0	0	0	982	
情報提供	41	16	1	1	0	0	1	1,325	
不登校・いじめ	38	20	2	0	0	0	0	740	
その他	30	26	1	2	0	0	1	2,368	

2 教育相談において連携している主な機関

〔(1)より3つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)～(4)から選択(5つまで)〕

(1)機関名

	回答数
①発達障害者支援センター	11
②医療機関等	17
③療育センター	11
④児童相談所等	6
⑤学校園	35
⑥特別支援学校	24
⑦大学・大学附属機関	5
⑧市町村教育委員会	16
⑨保健所・保健センター	2
⑩精神保健福祉センター	0
⑪ハローワーク	1
計	128

(2)連携内容

	回答数
①情報交換・情報共有	113
②医療的診断	14
③相談連携	75
④支援依頼	19
⑤検査依頼	9
⑥支援内容・方法の検討	49
⑦事例検討会	24
⑧支援会議	36
⑨指導・助言	32
⑩研修協力	25
計	396

(3)成果

	回答数
①他機関との円滑な連携が可能	39
②より専門的な相談の実施	45
③医療的な視点からの相談	22
④支援対象や支援内容の幅の拡大	38
⑤情報収集や情報共有	96
⑥就学相談の推進	24
⑦支援の継続が可能	29
⑧学校・地域に密着した支援	43
⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上	40
⑩就労率の向上	2
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化	69
計	447

(4)課題

	回答数
①関連機関との連携	16
②検討・協議時間の不足	28
③関連機関との日程調整	32
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方	42
⑤連携できる医療機関・診断機関の不足	17
⑥件数増加による対応	24
⑦意見調整	22
⑧役割分担の明確化	36
⑨継続的な相談	25
⑩関係職員の専門性	35
計	277

※その他

機関名 : 県教育委員会	連携内容 : 記載なし	成果 : 記載なし	課題 : 記載なし
機関名 : にこにこ相談	連携内容 : 記載なし	成果 : 記載なし	課題 : 記載なし
機関名 : 県教委高校教育課	連携内容 : 記載なし	成果 : 記載なし	課題 : 記載なし
機関名 : 県教育事務所	連携内容 : 記載なし	成果 : 記載なし	課題 : 記載なし
機関名 : 県子どもと親のサポートセンター	連携内容 : 記載なし	成果 : 記載なし	課題 : 連携強化
機関名 : 市町の発達支援センター等	連携内容 : 記載なし	成果 : 記載なし	課題 : 記載なし
機関名 : 教育委員会関係課	連携内容 : 記載なし	成果 : 記載なし	課題 : 記載なし
機関名 : 相談支援事業所	連携内容 : 記載なし	成果 : 記載なし	課題 : 記載なし
機関名 : 教育事務所	連携内容 : 記載なし	成果 : 記載なし	課題 : 記載なし
機関名 : 各区保健福祉センター	連携内容 : 検査結果情報提供	成果 : 児童虐待対応	課題 : 記載なし

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策

①他機関との連携の推進・強化(9)

- ・特別支援学校が事務局となっている「地区特別支援連携協議会」との連携の推進・強化
- ・昼夜を問わず、緊急性のある連携を要する相談を受けたときの円滑な報告、相談、連絡の徹底
- ・現在も、各関係機関と連携しながら相談業務を進めており、良好な関係ではあるが、より一層、連携を強化することで、相談体制の充実が図られると考える。
- ・各府立特別支援学校に設置の地域支援センター及び京都府スーパーサポートセンターとの必要な連携を今後もさらに強化していく
- ・課題: 各市町の相談体制についての共通理解 今後の方策: 市町の関係機関の視察、担当者同士の連絡体制の構築
- ・定期的に行われる連絡会議等における教育事務所等との情報交換・情報共有
- ・「いじめ不登校発達障害等相談」実施協議会(当センター相談事業の連携機関である長崎大学、本庁関係各課との教育相談体制充実に向けた協議会)の設置
- ・適切な相談対応をするための情報整理

②相談担当者の専門性の向上(14)

- ・相談資源の決して豊富とは言えない本県において、各学校の相談対応力を高めることは不可欠であり、そのための研修の在り方
- ・ことば相談、電話相談、来所相談
- ・関係機関訪問等を実施し、具体的な取り組みや役割等について伺い、連携や情報提供に活かす。
- ・相談担当者の入れ替わりがある中で、専門性の維持・向上に課題がある。

- ・連携マニュアルの充実、情報交換の機会を設ける、研修の充実、ケースを通して学ぶなど
- ・日常的に事例を通して学び合う場を充実させ、相談者の悩みを共に考えていく窓口としての役割を果たせるようにしていく。
- ・教育相談担当者研修会の実施、外部研修への参加による自己研鑽
- ・心身に問題を持つ児童生徒に適切に対応するため、学校教育相談の理論と技法について学ぶことにより教員の相談力向上を図る
- ・県障害福祉課・県教委特別支援教育課と連携しながら発達障害に関する相談対応に必要な知見を深める。
- ・研修のみセンターとして行っているため、学校の相談者の専門性の向上を図る研修内容の充実。
- ・スーパーアドバイザーとのケースカンファレンスの充実
- ・指導主事研修、教育相談員研修を計画的に行い、資質向上を図る。
- ・児童生徒の実態が多様化しているため、相談の中で実態を適切に見取り、具体的な支援の内容や方法を提案することが困難なケースが増えている。
- ・相談員の専門性・資質向上のため、定期的な研修が必要

③理解啓発・情報発信の充実(5)

- ・リーフレット等の配布
- ・教育センターホームページの充実を図る
- ・就学相談説明動画の作成・公開、学校向けの情報提供のための機関誌発行
- ・電話相談の電話番号をリーフレットやホームページ等で周知している。
- ・大阪市の教育相談はとも育少年局に移官されており、教育委員会事務局の事業から外れている。そのため、事務局との連携はあるが、学校現場からは児童相談所の業務と区別がつきにくく、混乱が生じることがある。学校現場への情報発信の内容・方法について検討したい。

④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築(11)

- ・広域分散型で地域資源が偏在する本道における障がいのある子どもへの支援体制の在り方について、道特別支援教育課と連携した取組を進めている。
- ・教育委員会組織内で系統的に支援(適切な働きかけや関わりを持つ)できる相談体制の構築を図る
- ・未定
- ・地域のネットワークづくりに向けた取組として、本年度から小・中・高・特別支援学校コーディネーターを対象とした「特別支援教育コーディネーター研修」を実施している。
- ・学校において特別支援教育に関する理解がなかなか進まない現状があり、研修会やセンター実施の講座等で専門性の向上を図る
- ・医療機関、福祉機関との連携のあり方を検討する。教育と福祉との合同研修を実施し、相互理解を図る。
- ・不登校を主訴とした相談の背景には、発達や人間関係、コミュニケーションに課題を抱えるものが多いことから、個に応じた適切な支援を行うために関係機関との情報共有と連携を図りたい。
- ・学校卒業時に向けた移行時期・連携先のシステムの構築
- ・特別支援学校における地域支援担当者の会議を開催し、地域の課題等を共有したり、課題解決に向けた協議等を行う予定。
- ・関係相談機関による連絡会や情報交換会、相談会をそれぞれ年1回実施している。
- ・就学から就労を見据えた一貫した支援ができる体制づくりや関係機関との連携

⑤学校等との連携(8)

- ・教育相談に関するニーズの把握
- ・学校の教育相談に関わる担当者等の資質向上を目指して、研修を実施し、連携の強化を図る。
- ・相談対象児童生徒の支援につなげるため、学校との連携を強化する。教員からの相談にも応じる。
- ・相談前の情報共有と、相談後の変化等の情報共有ができるよう、学校との連絡を密に行うための仕組みを検討する。
- ・教育相談を受ける地域、学校が偏っている。市教委単位、各学校の特別支援教育の推進を図るため、センターの支援事業を生かす
- ・相談者の意向を踏まえ、学校、園の組織的、主体的な相談体制に向けた取組に関する助言の在り方に苦慮
- ・特別支援教育コーディネーターや学級担任等と情報共有を行い、子どもの変容に応じて、適宜、支援の方向性について合意形成
- ・本人・保護者と学校との具体的な支援内容の合意形成

⑥その他(2)

- ・相談件数の増加(就学相談、特別支援学級への入級相談(転入を含む)、一般相談)、学校の相談支援体制と相談室の在り方の様
- ・心理検査の申し込みが年々増加の傾向にあり、約3カ月待機しなくてはならない状況が続いている。療育センターにおいても同様である。センターでは相談員の増員を検討している。

4 教育相談担当者の資質向上の取組み

①所内研修の実施(30)

- ・教育相談の事例検討を中心とした所員研修を年6回計画し、実施している。
- ・外部の専門家を招へいた研修を年1回計画している。
- ・外部講師による専門性向上に向けた研修会の実施
- ・医療療育センター医師を講師とした、地域の教育・福祉関係者との「教育相談研修会」の定期的な開催
- ・電話相談の事例を使ってどのように対応すればいいか定期的に話し合いをもって研修している。
- ・部内における相談ケースに関する事例検討会の実施

- ・月2回程度、ケース会議(対応困難な事例について等)、研修(LGBTQ、声かけ、初回面談、特別支援学校、不登校等)を実施して
- ・担当内で面接相談に係る研修を実施するとともに、臨床心理士同席のもと面接にあたる
- ・月1回の所員及び相談員対象の教育相談研修や県子どもと親のサポートセンターとの合同研修会等を通して、一人一人の相談業務に係る専門性の向上を図っている。
- ・スーパーバイザーによる事例検討会や、テーマごとの学習会など、研修を実施している。
- ・センター所属の臨床心理士が中心となり、相談員の資質向上をねらい、所内で複数回の研修を実施している。
- ・多様な相談ケースに対応できるように、年間を通して担当者研修を計画的に実施している。また、就学、LD、吃音に関する研修も行う
- ・相談マニュアルの充実、経験者から研修等を通して学ぶなど
- ・毎月の会議、研修会、ケース検討の実施
- ・事例検討会で、専門的な立場である大学教授等から指導助言を受けている。
- ・定期的にケース会を実施している。
- ・担当班内で、ケース会議を行ったり、文献研究の還流を行ったりする。
- ・島七浜セ合同研修会、事例研修、ケース会、搜索訓練、資質向上研修【傾聴演習、箱庭研修、エンカウンター研修、ロールプレイ(プレイ、電話相談)など】
- ・様々な視点から教育相談担当者研修の内容を考え、企画・実施する。
- ・担当者が事例提供をし、事例検討会を行うことで、相談の方向性を協議する。
- ・専門家による事例検討に関する研修の実施及び相談ケースに関するSVの実施
- ・特別支援を専門とする大学教授や精神科医師を講師とする事例検討会としての所内研修を実施している。
- ・年間5～6本の係内研修を実施
- ・ケースカンファレンス、検査実施・分析に関する研修会を年間5回程度実施
- ・センター連携大学事業の一環として、大学のスーパーバイザーによる研修会を、年間で12回実施している。また、事例研究会を年間で2回実施している。
- ・教育相談の基本、就学相談のあり方、福祉サービスの理解、いじめや不登校対策の実際等
- ・所内・部外研修への参加を実施し、ファーストキャリアを支援できるように工夫している。
- ・年間を通じた計画的な研修の実施
- ・月1回を原則にして、心理検査の結果分析やフィードバック等について、嘱託の臨床心理士を講師とした研修を実施している。
- ・特別支援教育については大学教員等の専門家を講師とした相談員研修会を年3回実施。特別支援教育に限らない取組では、臨床心理学の専門家によるケース検討会議を年9回実施。

②外部研修への参加(4)

- ・個人による研修参加
- ・様々な外部研修に、各個人で参加し、研修内容について情報共有を行っている。
- ・研修会への参加
- ・勤務時間内で研修に参加できるように、オンライン研修などを有効活用できるとよい。

③相談員同士の情報交換(10)

- ・こまめな情報交換、年間10回の嘱託医によるケース会議の開催
- ・情報共有を通して、相談内容や方法等を見直し、次の相談に反映させる。
- ・必要に応じて係事前検討会を実施し、ケースごとの困難な点の整理や、相談時の確認点・伝達点、困難さの背景要因耶穌の対応方法等について話し合い、相談当日に備えるとともに、個人の相談力向上を図る。
- ・相談案件について、相談担当者間で情報交換し、対応について協議を行っている。
- ・月1回の研修会で情報交換や情報共有を図っている。
- ・月に1回程度、カンファレンスを実施。事例検討を行い、教育相談担当者の資質向上を図っている。
- ・毎月、相談報告を行い、①子どもの実態、②相談員の対応、③支援の方向性について、情報交換を行っている。相談員相互にアドバイスをしたり、情報提供をしたりするなどしている。
- ・関係機関に関する情報や相談対応についての情報交換・情報共有
- ・相談内容をデータ化し、どのような相談があったか確認できるようにしている。
- ・日常的な情報共有に加え、お互いの専門性を生かした連携や学び合いの充実

④関係機関との情報交換(7)

- ・嘱託医のドクターから講義をしていただく機会を設けたり、嘱託医のドクターを交えて事例を通して学び合う機会を設けたりする。
- ・関係諸機関との連携会議を通して情報共有や事例検討を行い、他機関とのネットワークづくりと担当職員の資質向上を図りたい。
- ・京都府では、京都府教育支援委員会の委員として、当センターの研究主事兼指導主事が就学巡回教育相談に参加している。また、研修や会議等を通して、教育相談に必要な資質向上に努めている。
- ・鳴門教育大学等と連携し、ケース会議を行うなど情報交換等を行っている。
- ・施設・事業所・医療機関等の訪問や見学を通じた情報交換
- ・関係機関と連携した多職種の研修
- ・関係機関が学校訪問して見えてきた課題をオンラインのケース会などを通して学校・教育委員会(教育総合支援センター)・関係機関が情報共有し、解決策を話し合った。

⑤その他(1)

・教育センターとして、相談業務は実施していない。

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機 関 名
2	北海道立特別支援教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	61 件	総回数	65 回
-----	------	-----	------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	9 件	9 回	小学生	31 件	33 回
中学生	11 件	13 回	高校生	10 件	10 回

③ 内容別内訳

就学・進学	14 件	14 回	学習・指導法	5 件	5 回
卒業・進路	4 件	4 回	養育・家庭生活	3 件	3 回
学校生活(対人関係等)	32 件	34 回	いじめ・不登校	2 件	3 回
その他	1 件	2 回			

④ 障害別内訳

知的障害	13 件	14 回	自閉症・情緒障害	2 件	2 回
言語障害	2 件	2 回	聴覚障害	3 件	3 回
視覚障害	2 件	3 回	肢体不自由	0 件	0 回
発達障害	38 件	40 回	病弱・身体虚弱	1 件	1 回
重度・重複	0 件	0 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	8 件	8 回	中学生	8 件	10 回
高校生	8 件	8 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	443 回	関係教員	71 回	本人	9 回	その他	37 回
-----	-------	------	------	----	-----	-----	------

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	28 回	学習・指導法	74 回	学校生活(対人関係等)	100 回
卒業・進路	29 回	養育・家庭生活	37 回	情報提供	10 回
不登校・いじめ	34 回	その他	248 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容					(3)成果					(4)課題				
②	①	②	③	⑤	⑥	②	③	④	⑪		③	⑧			
⑤	①	③	⑥	⑦	⑧	⑤	⑦	⑧	⑨	⑪	③	④			
⑥	①	③	④	⑤	⑩	④	⑤	⑦	⑧	⑨	⑨				

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
④	・広域分散型で地域資源が偏在する本道における障がいのある子どもへの支援体制の在り方について、道特別支援教育課と連携した取組を進めている。

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
①	・教育相談の事例検討を中心とした所員研修を年6回計画し、実施している。 ・外部の専門家を招いた研修を年1回計画している。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機 関 名
3	青森県総合学校教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	52 件	総回数	192 回
-----	------	-----	-------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	4 件	14 回	小学生	23 件	62 回
中学生	6 件	20 回	高校生	6 件	26 回

③ 内容別内訳

就学・進学	件	回	学習・指導法	件	回
卒業・進路	1 件	1 回	養育・家庭生活	件	回
学校生活(対人関係等)	件	回	いじめ・不登校	0 件	0 回
その他	2 件	2 回			

④ 障害別内訳

知的障害	0 件	0 回	自閉症・情緒障害	6 件	14 回
言語障害	0 件	0 回	聴覚障害	0 件	0 回
視覚障害	0 件	0 回	肢体不自由	0 件	0 回
発達障害	17 件	56 回	病弱・身体虚弱	0 件	0 回
重度・重複	0 件	0 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	件	回	中学生	件	回
高校生	件	回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	42 回	関係教員	42 回	本人	0 回	その他	5 回
-----	------	------	------	----	-----	-----	-----

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	回	学習・指導法	回	学校生活(対人関係等)	回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	回	情報提供	13 回
不登校・いじめ	0 回	その他	回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで) ※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容			(3)成果			(4)課題		
①	①	③	⑧	①	⑤		①	⑧	⑩
②	⑨			③	⑨		①	③	⑤
③	⑨	⑩		②	⑨		③		

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
①	特別支援学校が事務局となっている「地区特別支援連携協議会」との連携の推進・強化

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
①	外部講師による専門性向上に向けた研修会の実施

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機 関 名
4	岩手県立総合教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	79 件	総回数	308 回
-----	------	-----	-------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	0 件	0 回	小学生	26 件	100 回
中学生	28 件	90 回	高校生	32 件	118 回

③ 内容別内訳

就学・進学	0 件	0 回	学習・指導法	16 件	46 回
卒業・進路	1 件	1 回	養育・家庭生活	2 件	7 回
学校生活(対人関係等)	35 件	152 回	いじめ・不登校	21 件	71 回
その他	4 件	31 回			

④ 障害別内訳

知的障害	0 件	0 回	自閉症・情緒障害	3 件	15 回
言語障害	0 件	0 回	聴覚障害	0 件	0 回
視覚障害	0 件	0 回	肢体不自由	0 件	0 回
発達障害	8 件	32 回	病弱・身体虚弱	0 件	0 回
重度・重複	0 件	0 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	22 件	84 回	中学生	26 件	81 回
高校生	32 件	118 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	727 回	関係教員	343 回	本人	148 回	その他	30 回
-----	-------	------	-------	----	-------	-----	------

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	0 回	学習・指導法	217 回	学校生活(対人関係等)	542 回
卒業・進路	19 回	養育・家庭生活	28 回	情報提供	0 回
不登校・いじめ	188 回	その他	254 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)～(4)から選択(五つまで) ※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容					(3)成果					(4)課題				
⑤	①	③	⑥	⑧		⑤	⑧	⑨			⑧	⑨	⑦		
⑫	①	③	⑨	⑩		⑤	⑪								
③	⑦	⑥				②	③								

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1(県教育委員会) ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
②	相談資源の決して豊富とは言えない本県において、各学校の相談対応力を高めることは不可欠であり、そのための研修の在り方等を検討する。

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
③	こまめな情報交換、年間10回の嘱託医によるケース会議の開催

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機 関 名
5	宮城県総合教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	224 件	総回数	300 回
-----	-------	-----	-------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	5 件	6 回	小学生	181 件	235 回
中学生	36 件	55 回	高校生	2 件	4 回

③ 内容別内訳

就学・進学	5 件	6 回	学習・指導法	75 件	75 回
卒業・進路	1 件	2 回	養育・家庭生活	18 件	18 回
学校生活(対人関係等)	36 件	36 回	いじめ・不登校	2 件	2 回
その他	87 件	161 回			

④ 障害別内訳

知的障害	4 件	5 回	自閉症・情緒障害	8 件	9 回
言語障害	0 件	0 回	聴覚障害	0 件	0 回
視覚障害	0 件	0 回	肢体不自由	0 件	0 回
発達障害	11 件	15 回	病弱・身体虚弱	2 件	3 回
重度・重複	0 件	0 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	171 件	224 回	中学生	32 件	51 回
高校生	2 件	4 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	1110 回	関係教員	194 回	本人	5 回	その他	52 回
-----	--------	------	-------	----	-----	-----	------

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	22 回	学習・指導法	188 回	学校生活(対人関係等)	131 回
卒業・進路	14 回	養育・家庭生活	90 回	情報提供	743 回
不登校・いじめ	32 回	その他	141 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容						(3)成果					(4)課題				
②	①	②	③	⑥	⑧	①	②	③	⑤	⑧	②	③	④	⑤	⑥	
⑧	①	②	③	⑥	⑧	①	②	③	⑤	⑧	②	③	④	⑤	⑥	
⑨	①	②	③	⑥	⑧	①	②	③	⑤	⑧	②	③	④	⑤	⑥	

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
④	教育委員会組織内で系統的に支援(適切な働きかけや関わりを持つ)できる相談体制の構築を図る

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
③	情報共有を通して、相談内容や方法等を見直し、次の相談に反映させる。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
6	秋田県総合教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	6 件	総回数	11 回
-----	-----	-----	------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	0 件	0 回	小学生	4 件	5 回
中学生	1 件	4 回	高校生	1 件	2 回

③ 内容別内訳

就学・進学	0 件	0 回	学習・指導法	1 件	2 回
卒業・進路	0 件	0 回	養育・家庭生活	0 件	0 回
学校生活(対人関係等)	3 件	6 回	いじめ・不登校	1 件	1 回
その他	1 件	2 回			

④ 障害別内訳

知的障害	0 件	0 回	自閉症・情緒障害	4 件	5 回
言語障害	0 件	0 回	聴覚障害	0 件	0 回
視覚障害	0 件	0 回	肢体不自由	0 件	0 回
発達障害	2 件	6 回	病弱・身体虚弱	0 件	0 回
重度・重複	0 件	0 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	3 件	4 回	中学生	1 件	4 回
高校生	1 件	2 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	35 回	関係教員	0 回	本人	0 回	その他	0 回
-----	------	------	-----	----	-----	-----	-----

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	2 回	学習・指導法	3 回	学校生活(対人関係等)	16 回
卒業・進路	0 回	養育・家庭生活	3 回	情報提供	0 回
不登校・いじめ	8 回	その他	3 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容			(3)成果			(4)課題		
②	⑦	⑨		③	⑪		③		
③	⑦	⑨		③	⑪		③		
⑥	①	⑦		②	⑧		④		

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
④	未定

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
①	医療療育センター医師を講師とした、地域の教育・福祉関係者との「教育相談研修会」の定期的な開催

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
7	山形県教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	0 件
-----	-----

総回数	0 回
-----	-----

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	0 件	0 回	小学生	0 件	0 回
中学生	0 件	0 回	高校生	0 件	0 回

③ 内容別内訳

就学・進学	0 件	0 回	学習・指導法	0 件	0 回
卒業・進路	0 件	0 回	養育・家庭生活	0 件	0 回
学校生活(対人関係等)	0 件	0 回	いじめ・不登校	0 件	0 回
その他	0 件	0 回			

④ 障害別内訳

知的障害	0 件	0 回	自閉症・情緒障害	0 件	0 回
言語障害	0 件	0 回	聴覚障害	0 件	0 回
視覚障害	0 件	0 回	肢体不自由	0 件	0 回
発達障害	0 件	0 回	病弱・身体虚弱	0 件	0 回
重度・重複	0 件	0 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	0 件	0 回	中学生	0 件	0 回
高校生	0 件	0 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	52 回	関係教員	1 回	本人	0 回	その他	0 回
-----	------	------	-----	----	-----	-----	-----

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	8 回	学習・指導法	0 回	学校生活(対人関係等)	2 回
卒業・進路	0 回	養育・家庭生活	27 回	情報提供	19 回
不登校・いじめ	0 回	その他	1 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで) ※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容	(3)成果	(4)課題
⑥	④	⑤ ⑥ ⑪	② ⑩
⑧	④	⑤ ⑥ ⑪	② ⑩
⑫	④	⑤ ⑥ ⑪	② ⑩

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1(ここに相談) ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
②	ことば相談、電話相談、来所相談

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
①	電話相談の事例を使ってどのように対応すればいいか定期的に話し合いをもって研修している。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機 関 名
8	福島県特別支援教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	81 件	総回数	368 回
-----	------	-----	-------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	8 件	20 回	小学生	47 件	221 回
中学生	17 件	91 回	高校生	8 件	34 回

③ 内容別内訳

就学・進学	15 件	55 回	学習・指導法	7 件	61 回
卒業・進路	1 件	10 回	養育・家庭生活	15 件	53 回
学校生活(対人関係等)	34 件	140 回	いじめ・不登校	9 件	49 回
その他	0 件	0 回			

④ 障害別内訳

知的障害	9 件	38 回	自閉症・情緒障害	32 件	184 回
言語障害	1 件	1 回	聴覚障害	3 件	9 回
視覚障害	0 件	0 回	肢体不自由	1 件	6 回
発達障害	7 件	30 回	病弱・身体虚弱	0 件	0 回
重度・重複	0 件	0 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	26 件	127 回	中学生	16 件	75 回
高校生	12 件	41 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	244 回	関係教員	66 回	本人	5 回	その他	33 回
-----	-------	------	------	----	-----	-----	------

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	54 回	学習・指導法	29 回	学校生活(対人関係等)	回
卒業・進路	2 回	養育・家庭生活	64 回	情報提供	0 回
不登校・いじめ	18 回	その他	12 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで) ※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1) 機関名	(2) 連携内容					(3) 成果					(4) 課題				
③	④					②	③	⑤	⑥	⑪	⑦	⑧			
⑤	③	⑥	⑦			④	⑤	⑦	⑨	⑪	②	③	⑩		
⑥	①	③	⑥	⑧		①	④	⑤	⑨	⑪	③				

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
②	関係機関訪問等を実施し、具体的な取り組みや役割等について伺い、連携や情報提供に活かす。

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
③	必要に応じて係事前検討会を実施し、ケースごとの困難な点の整理や、相談時の確認点・伝達点、困難さの背景要因即座の対応方法等について話し合い、相談当日に備えるとともに、個人の相談力向上を図る。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
8	茨城県教育研修センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	件	総回数	回
-----	---	-----	---

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	件	回	小学生	件	回
中学生	件	回	高校生	件	回

③ 内容別内訳

就学・進学	件	回	学習・指導法	件	回
卒業・進路	件	回	養育・家庭生活	件	回
学校生活(対人関係等)	件	回	いじめ・不登校	件	回
その他	件	回			

④ 障害別内訳

知的障害	件	回	自閉症・情緒障害	件	回
言語障害	件	回	聴覚障害	件	回
視覚障害	件	回	肢体不自由	件	回
発達障害	件	回	病弱・身体虚弱	件	回
重度・重複	件	回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	件	回	中学生	件	回
高校生	件	回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	回	関係教員	回	本人	回	その他	回
-----	---	------	---	----	---	-----	---

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	回	学習・指導法	回	学校生活(対人関係等)	回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	回	情報提供	回
不登校・いじめ	回	その他	回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容	(3)成果	(4)課題

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
10	栃木県総合教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	9 件	総回数	62 回
-----	-----	-----	------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	2 件	12 回	小学生	2 件	2 回
中学生	0 件	0 回	高校生	3 件	34 回

③ 内容別内訳

就学・進学	0 件	0 回	学習・指導法	0 件	0 回
卒業・進路	1 件	1 回	養育・家庭生活	2 件	21 回
学校生活(対人関係等)	6 件	40 回	いじめ・不登校	0 件	0 回
その他	0 件	0 回			

④ 障害別内訳

知的障害	2 件	14 回	自閉症・情緒障害	5 件	36 回
言語障害	1 件	11 回	聴覚障害	0 件	0 回
視覚障害	0 件	0 回	肢体不自由	1 件	1 回
発達障害	0 件	0 回	病弱・身体虚弱	0 件	0 回
重度・重複	0 件	0 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	1 件	1 回	中学生	0 件	0 回
高校生	3 件	34 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	0 回	関係教員	0 回	本人	0 回	その他	0 回
-----	-----	------	-----	----	-----	-----	-----

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	0 回	学習・指導法	0 回	学校生活(対人関係等)	0 回
卒業・進路	0 回	養育・家庭生活	0 回	情報提供	0 回
不登校・いじめ	0 回	その他	0 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで) ※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容					(3)成果					(4)課題				
⑤	①	③	⑥	⑦	⑨	⑤	⑧	⑨	⑪	④	⑧	⑩			
③	①	③				④	⑨			⑨	⑩				
②	①	②	③			②				④					

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
⑤	教育相談に関するニーズの把握

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
①	部内における相談ケースに関する事例検討会の実施

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
11	群馬県総合教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	37 件	総回数	156 回
-----	------	-----	-------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	10 件	46 回	小学生	16 件	69 回
中学生	7 件	24 回	高校生	4 件	17 回

③ 内容別内訳

就学・進学	1 件	1 回	学習・指導法	10 件	37 回
卒業・進路	0 件	0 回	養育・家庭生活	16 件	44 回
学校生活(対人関係等)	1 件	1 回	いじめ・不登校	4 件	5 回
その他	17 件	68 回			

④ 障害別内訳

知的障害	21 件	102 回	自閉症・情緒障害	4 件	15 回
言語障害	9 件	35 回	聴覚障害	0 件	0 回
視覚障害	0 件	0 回	肢体不自由	0 件	0 回
発達障害	3 件	4 回	病弱・身体虚弱	0 件	0 回
重度・重複	0 件	0 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	4 件	15 回	中学生	3 件	9 回
高校生	2 件	9 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	155 回	関係教員	2 回	本人	2 回	その他	1 回
-----	-------	------	-----	----	-----	-----	-----

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	8 回	学習・指導法	26 回	学校生活(対人関係等)	1 回
卒業・進路	0 回	養育・家庭生活	49 回	情報提供	9 回
不登校・いじめ	0 回	その他	67 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容			(3)成果			(4)課題		
⑧	①	③		①	⑤	⑧	④		
⑫	①	③		①	⑤	⑧	④		
⑬	①	③		①	⑤	⑧	④		

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1(県教委高校教育課) ⑬その他2(県教育事務所)

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
①	昼夜を問わず、緊急性のある連携を要する相談を受けたときの円滑な報告、相談、連絡の徹底

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
①	月2回程度、ケース会議(対応困難な事例について等)、研修(LGBTQ、声かけ、初回面談、特別支援学校、不登校等)を実施している。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機 関 名
12	埼玉県立総合教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	11 件
-----	------

総回数	34 回
-----	------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	0 件	0 回
中学生	2 件	6 回

小学生	5 件	17 回
高校生	4 件	11 回

③ 内容別内訳

就学・進学	2 件	8 回
卒業・進路	0 件	0 回
学校生活(対人関係等)	0 件	0 回
その他	0 件	0 回

学習・指導法	9 件	26 回
養育・家庭生活	0 件	0 回
いじめ・不登校	0 件	0 回

④ 障害別内訳

知的障害	0 件	0 回
言語障害	0 件	0 回
視覚障害	0 件	0 回
発達障害	7 件	23 回
重度・重複	0 件	0 回

自閉症・情緒障害	4 件	11 回
聴覚障害	0 件	0 回
肢体不自由	0 件	0 回
病弱・身体虚弱	0 件	0 回

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	1 件	6 回
高校生	4 件	11 回

中学生	2 件	6 回
-----	-----	-----

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	回	関係教員	回	本人	回	その他	回
-----	---	------	---	----	---	-----	---

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	回	学習・指導法	回	学校生活(対人関係等)	回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	回	情報提供	回
不登校・いじめ	回	その他	回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで) ※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容	(3)成果	(4)課題
⑤	①	⑤ ⑦ ⑧	④ ⑧
⑥	①	⑤ ⑧	④ ⑩
⑧	①	⑤ ⑧	④ ⑩

- (1) 機関名
①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()
- (2) 連携内容
①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()
- (3) 成果
①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()
- (4) 課題
①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
③	リーレット等の配布

- (1) 課題・方策
①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
①	担当内で面接相談に係る研修を実施するとともに、臨床心理士同席のもと面接にあたる

- (1) 取組
①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
14	東京都教職員研修センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	件	総回数	回
-----	---	-----	---

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	件	回	小学生	件	回
中学生	件	回	高校生	件	回

③ 内容別内訳

就学・進学	件	回	学習・指導法	件	回
卒業・進路	件	回	養育・家庭生活	件	回
学校生活(対人関係等)	件	回	いじめ・不登校	件	回
その他	件	回			

④ 障害別内訳

知的障害	件	回	自閉症・情緒障害	件	回
言語障害	件	回	聴覚障害	件	回
視覚障害	件	回	肢体不自由	件	回
発達障害	件	回	病弱・身体虚弱	件	回
重度・重複	件	回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	件	回	中学生	件	回
高校生	件	回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	回	関係教員	回	本人	回	その他	回
-----	---	------	---	----	---	-----	---

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	回	学習・指導法	回	学校生活(対人関係等)	回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	回	情報提供	回
不登校・いじめ	回	その他	回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで) ※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容	(3)成果	(4)課題

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機 関 名
15	神奈川県立総合教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	件	総回数	回
-----	---	-----	---

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	件	回	小学生	件	回
中学生	件	回	高校生	件	回

③ 内容別内訳

就学・進学	件	回	学習・指導法	件	回
卒業・進路	件	回	養育・家庭生活	件	回
学校生活(対人関係等)	件	回	いじめ・不登校	件	回
その他	件	回			

④ 障害別内訳

知的障害	件	回	自閉症・情緒障害	件	回
言語障害	件	回	聴覚障害	件	回
視覚障害	件	回	肢体不自由	件	回
発達障害	件	回	病弱・身体虚弱	件	回
重度・重複	件	回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	件	回	中学生	件	回
高校生	件	回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	回	関係教員	回	本人	回	その他	回
-----	---	------	---	----	---	-----	---

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	回	学習・指導法	回	学校生活(対人関係等)	回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	回	情報提供	回
不登校・いじめ	回	その他	回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで) ※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容					(3)成果					(4)課題				
⑤	①	③	⑥	⑧	⑨	④	⑤	⑧	⑨	⑪	③	⑩			
⑥	①	③	⑥	⑧	⑨	④	⑤	⑧	⑨	⑪	③	⑩			
⑧	①	③	⑧	⑨		①	④	⑤	⑧	⑪	①	④	⑦	⑧	⑨

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
②	相談担当者の入れ替わりがある中で、専門性の維持・向上に課題がある。

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
①	スーパーバイザーによる事例検討会や、テーマごとの学習会など、研修を実施している。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
16	新潟県立教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	件	回	小学生	件	回
中学生	3 件	5 回	高校生	1 件	1 回

③ 内容別内訳

就学・進学	件	回	学習・指導法	1 件	3 回
卒業・進路	件	回	養育・家庭生活	件	回
学校生活(対人関係等)	2 件	2 回	いじめ・不登校	1 件	1 回
その他	1 件	1 回			

④ 障害別内訳

知的障害	1 件	1 回	自閉症・情緒障害	件	回
言語障害	件	回	聴覚障害	1 件	1 回
視覚障害	件	回	肢体不自由	件	回
発達障害	2 件	4 回	病弱・身体虚弱	件	回
重度・重複	件	回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	件	回	中学生	3 件	5 回
高校生	1 件	1 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	7 回	学習・指導法	18 回	学校生活(対人関係等)	11 回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	1 回	情報提供	回
不登校・いじめ	6 回	その他	18 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容	(3)成果	(4)課題
①	⑩	⑤	⑨

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
④	地域のネットワークづくりに向けた取組として、本年度から小・中・高・特別支援学校コーディネーターを対象とした「特別支援教育コーディネーター研修」を実施している。

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
③	相談案件について、相談担当者間で情報交換し、対応について協議を行っている。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
17	富山県総合教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	89 件	総回数	469 回
-----	------	-----	-------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	9 件	41 回	小学生	50 件	268 回
中学生	23 件	118 回	高校生	7 件	42 回

③ 内容別内訳

就学・進学	15 件	62 回	学習・指導法	9 件	48 回
卒業・進路	8 件	30 回	養育・家庭生活	18 件	104 回
学校生活(対人関係等)	20 件	139 回	いじめ・不登校	5 件	38 回
その他	14 件	48 回			

④ 障害別内訳

知的障害	13 件	63 回	自閉症・情緒障害	9 件	63 回
言語障害	0 件	0 回	聴覚障害	1 件	3 回
視覚障害	0 件	0 回	肢体不自由	0 件	0 回
発達障害	66 件	340 回	病弱・身体虚弱	0 件	0 回
重度・重複	0 件	0 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	28 件	136 回	中学生	12 件	78 回
高校生	4 件	32 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	361 回	関係教員	62 回	本人	43 回	その他	52 回
-----	-------	------	------	----	------	-----	------

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	52 回	学習・指導法	86 回	学校生活(対人関係等)	148 回
卒業・進路	40 回	養育・家庭生活	66 回	情報提供	23 回
不登校・いじめ	42 回	その他	61 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容			(3)成果			(4)課題		
⑤	①	③	⑧	⑤	④	⑨	⑦	⑩	②
②	①	③	②	③	⑩	②	⑤	⑥	④
⑧	①	③	⑨	⑤	⑥	⑧	⑥	⑦	⑨

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
③	学校において特別支援教育に関する理解がなかなか進まない現状があり、研修会やセンター実施の講座等で専門性の向上を図っている。

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
①	センター所属の臨床心理士が中心となり、相談員の資質向上をねらい、所内で複数回の研修を実施している。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機 関 名
18	石川県教員総合研修センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	件	総回数	回
-----	---	-----	---

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	件	回	小学生	件	回
中学生	件	回	高校生	件	回

③ 内容別内訳

就学・進学	件	回	学習・指導法	件	回
卒業・進路	件	回	養育・家庭生活	件	回
学校生活(対人関係等)	件	回	いじめ・不登校	件	回
その他	件	回			

④ 障害別内訳

知的障害	件	回	自閉症・情緒障害	件	回
言語障害	件	回	聴覚障害	件	回
視覚障害	件	回	肢体不自由	件	回
発達障害	件	回	病弱・身体虚弱	件	回
重度・重複	件	回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	件	回	中学生	件	回
高校生	件	回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	回	関係教員	回	本人	回	その他	回
-----	---	------	---	----	---	-----	---

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	回	学習・指導法	回	学校生活(対人関係等)	回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	回	情報提供	回
不登校・いじめ	回	その他	回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで) ※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容	(3)成果	(4)課題

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機 関 名
19	福井県特別支援教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	1,163 件	総回数	7,959 回
-----	---------	-----	---------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	183 件	1,206 回	小学生	773 件	5,308 回
中学生	156 件	1,076 回	高校生	51 件	369 回

③ 内容別内訳

就学・進学	件	回	} 241	学習・指導法	638 件	回
卒業・進路	件	回		養育・家庭生活	235 件	回
学校生活(対人関係等)	733 件	回		いじめ・不登校	80 件	回
その他	172 件	回				

④ 障害別内訳

知的障害	175 件	回	自閉症・情緒障害	26 件	回
言語障害	50 件	回	聴覚障害	7 件	回
視覚障害	9 件	回	肢体不自由	16 件	回
発達障害	864 件	回	病弱・身体虚弱	3 件	回
重度・重複	件	回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	700 件	4,705 回	中学生	123 件	874 回
高校生	48 件	358 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	回	関係教員	回	本人	回	その他	回
-----	---	------	---	----	---	-----	---

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	回	学習・指導法	回	学校生活(対人関係等)	回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	回	情報提供	回
不登校・いじめ	回	その他	回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1) 機関名	(2) 連携内容					(3) 成果					(4) 課題			
②	①	③	⑩			②	③	④	⑤	⑪	⑤	⑦	⑧	
①	①	⑥	⑧	⑩		②	④	⑤	⑦	⑩	②	③	⑧	
⑤	⑤	⑥	⑦	⑧	⑩	④	⑤	⑦	⑧	⑪	⑥	⑦	⑧	⑩

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
④	医療機関、福祉機関との連携のあり方を検討する。教育と福祉との合同研修を実施し、相互理解を図る。

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
①	多様な相談ケースに対応できるように、年間を通して担当者研修を計画的に実施している。また、就学、LD、吃音に関する研修も行っている。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
20	山梨県総合教育センター相談支援センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	192 件	総回数	383 回
-----	-------	-----	-------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	52 件	105 回	小学生	65 件	129 回
中学生	68 件	136 回	高校生	7 件	13 回

③ 内容別内訳

就学・進学	150 件	300 回	学習・指導法	0 件	0 回
卒業・進路	0 件	0 回	養育・家庭生活	0 件	0 回
学校生活(対人関係等)	34 件	68 回	いじめ・不登校	1 件	1 回
その他	7 件	14 回			

④ 障害別内訳

知的障害	74 件	149 回	自閉症・情緒障害	62 件	125 回
言語障害	1 件	1 回	聴覚障害	0 件	0 回
視覚障害	0 件	0 回	肢体不自由	2 件	3 回
発達障害	9 件	18 回	病弱・身体虚弱	2 件	3 回
重度・重複	0 件	0 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	24 件	50 回	中学生	26 件	52 回
高校生	7 件	10 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	82 回	関係教員	306 回	本人	0 回	その他	218 回
-----	------	------	-------	----	-----	-----	-------

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	363 回	学習・指導法	68 回	学校生活(対人関係等)	0 回
卒業・進路	0 回	養育・家庭生活	0 回	情報提供	0 回
不登校・いじめ	0 回	その他	15 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで) ※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容				(3)成果					(4)課題				
⑧	①	⑤	⑥	⑦	⑨	②	⑤	⑥	⑧		⑤	⑥	⑧	⑩
⑤	⑤	⑥	⑨			②	④	⑤	⑥	⑪	⑥	⑨	⑩	
⑥	①	④	⑨			②	④	⑤	⑥	⑦	⑦	⑩		

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
②	連携マニュアルの充実、情報交換の機会を設ける、研修の充実、ケースを通して学ぶなど

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
①	相談マニュアルの充実、経験者から研修等を通して学ぶなど

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
21	長野県総合教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	13 件	総回数	119 回
-----	------	-----	-------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	0 件	0 回	小学生	2 件	20 回
中学生	8 件	64 回	高校生	3 件	35 回

③ 内容別内訳

就学・進学	件	回	学習・指導法	件	回
卒業・進路	2 件	3 回	養育・家庭生活	1 件	1 回
学校生活(対人関係等)	4 件	15 回	いじめ・不登校	7 件	100 回
その他	件	回			

④ 障害別内訳

知的障害	1 件	1 回	自閉症・情緒障害	件	回
言語障害	件	回	聴覚障害	件	回
視覚障害	件	回	肢体不自由	件	回
発達障害	11 件	118 回	病弱・身体虚弱	件	回
重度・重複	件	回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	1 件	15 回	中学生	8 件	44 回
高校生	3 件	35 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	35 回	関係教員	2 回	本人	2 回	その他	1 回
-----	------	------	-----	----	-----	-----	-----

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	0 回	学習・指導法	4 回	学校生活(対人関係等)	6 回
卒業・進路	5 回	養育・家庭生活	3 回	情報提供	0 回
不登校・いじめ	22 回	その他	0 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで) ※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容			(3)成果			(4)課題		
②	⑦	⑨		②	③	⑨	①		
⑤	①	③	⑧	⑤	⑧		②	⑦	
⑧	①			①			⑧		

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
②	日常的に事例を通して学び合う場を充実させ、相談者の悩みを共に考えていく窓口としての役割を果たせるようにしていく。

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
④	嘱託医のドクターから講義をしていただく機会を設けたり、嘱託医のドクターを交えて事例を通して学び合う機会を設けたりする。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機 関 名
22	岐阜県総合教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績 ※件数ごとに分類していないため記入できません。

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	件	総回数	30	回
-----	---	-----	----	---

② 対象別内訳 ※件数ごとに分類していないため記入できません。

幼児・新学齢児	件	0	回	小学生	件	19	回
中学生	件	10	回	高校生	件	1	回

③ 内容別内訳 ※未分類のため記入できません。

就学・進学	件	回	学習・指導法	件	回
卒業・進路	件	回	養育・家庭生活	件	回
学校生活(対人関係等)	件	回	いじめ・不登校	件	回
その他	件	回			

④ 障害別内訳 ※発達障害等で集約されているため記入できません。

知的障害	件	回	自閉症・情緒障害	件	回
言語障害	件	回	聴覚障害	件	回
視覚障害	件	回	肢体不自由	件	回
発達障害	件	回	病弱・身体虚弱	件	回
重度・重複	件	回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒 ※未分類のため記入できません。

小学生	件	回	中学生	件	回
高校生	件	回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳 ※未分類のため記入できません。

保護者	回	関係教員	回	本人	回	その他	回
-----	---	------	---	----	---	-----	---

② 電話相談の内容別内訳 ※未分類のため記入できません。

就学・進学	回	学習・指導法	回	学校生活(対人関係等)	回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	回	情報提供	回
不登校・いじめ	回	その他	回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容			(3)成果			(4)課題		
①	③			⑤	⑦		④		
⑤	①	③	⑥	⑦	①	⑤	⑩		
⑥	①	⑥	⑦		①	⑤	⑩		

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
④	・不登校を主訴とした相談の背景には、発達や人間関係、コミュニケーションに課題を抱えるものが多いことから、個に応じた適切な支援を行うために関係機関との情報共有と連携を図りたい。

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
④	・関係諸機関との連携会議を通して情報共有や事例検討を行い、他機関とのネットワークづくりと担当職員の資質向上を図りたい。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
23	静岡県総合教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	37 件	総回数	330 回
-----	------	-----	-------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	0 件	0 回	小学生	13 件	190 回
中学生	9 件	66 回	高校生	13 件	42 回

③ 内容別内訳

就学・進学	0 件	0 回	学習・指導法	0 件	0 回
卒業・進路	5 件	42 回	養育・家庭生活	0 件	0 回
学校生活(対人関係等)	11 件	109 回	いじめ・不登校	0 件	0 回
その他	3 件	5 回			

④ 障害別内訳

知的障害	5 件	28 回	自閉症・情緒障害	0 件	0 回
言語障害	0 件	0 回	聴覚障害	1 件	1 回
視覚障害	0 件	0 回	肢体不自由	0 件	0 回
発達障害	30 件	296 回	病弱・身体虚弱	0 件	0 回
重度・重複	0 件	0 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	5 件	87 回	中学生	4 件	31 回
高校生	11 件	138 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	36 回	関係教員	2 回	本人	21 回	その他	0 回
-----	------	------	-----	----	------	-----	-----

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	1 回	学習・指導法	2 回	学校生活(対人関係等)	0 回
卒業・進路	0 回	養育・家庭生活	6 回	情報提供	0 回
不登校・いじめ	0 回	その他	50 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容					(3)成果					(4)課題			
⑤	①	③	⑥	⑧	⑩	②	⑤	⑦	⑨	⑪	②	④		
⑥	①					⑤					④			
①	④	⑧				①	②	⑤	⑦	⑪	③			

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
④	学校卒業時に向けた移行時期・連携先のシステムの構築

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
①	毎月の会議、研修会、ケース検討の実施

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
24	愛知県総合教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	240 件	総回数	981 回
-----	-------	-----	-------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	40 件	162 回	小学生	147 件	595 回
中学生	42 件	186 回	高校生	11 件	38 回

③ 内容別内訳

就学・進学	21 件	89 回	学習・指導法	173 件	740 回
卒業・進路	16 件	52 回	養育・家庭生活	15 件	55 回
学校生活(対人関係等)	／ 件	／ 回	いじめ・不登校	／ 件	／ 回
その他	15 件	45 回			

※「学校生活」及び「いじめ・不登校」については、「学習・指導法」に含まれております。

④ 障害別内訳

知的障害	44 件	199 回	自閉症・情緒障害	93 件	399 回
言語障害	0 件	0 回	聴覚障害	3 件	8 回
視覚障害	1 件	1 回	肢体不自由	3 件	12 回
発達障害	／ 件	／ 回	病弱・身体虚弱	2 件	4 回
重度・重複	／ 件	／ 回	※「未受診・その他」	94件	358件

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	85 件	348 回	中学生	25 件	107 回
高校生	11 件	38 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	318 回	関係教員	33 回	本人	0 回	その他	8 回
-----	-------	------	------	----	-----	-----	-----

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	28 回	学習・指導法	262 回	学校生活(対人関係等)	／ 回
卒業・進路	32 回	養育・家庭生活	9 回	情報提供	／ 回
不登校・いじめ	／ 回	その他	28 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)～(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容					(3)成果					(4)課題				
⑤	①	③	⑥	⑦	⑩	②	⑤	⑧	⑨	⑪	③	⑩	⑪		
⑥	①	③	⑥	⑦	⑩	②	⑤	⑧	⑨	⑪	③	⑩	⑪		
⑧	①	③				①	⑤	⑧			③	⑤	⑪		

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1(旅費の確保) ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
⑤	・学校等の場で困難を抱えている相談ケースが多い。そのため、学校等の状況を把握しながら相談を進めることが望ましい。学校等支援事業をセンターの役割としていく。

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
①	・事例検討会で、専門的な立場である大学教授等から指導助言を受けている。 ・定期的にケース会を実施している。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
25	三重県教育委員会事務局

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	26 件	総回数	394 回
-----	------	-----	-------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	2 件	14 回	小学生	12 件	124 回
中学生	8 件	162 回	高校生	4 件	94 回

③ 内容別内訳 →統計をとっていません

就学・進学	件	回	学習・指導法	件	回
卒業・進路	件	回	養育・家庭生活	件	回
学校生活(対人関係等)	件	回	いじめ・不登校	件	回
その他	件	回			

④ 障害別内訳 →統計をとっていません

知的障害	件	回	自閉症・情緒障害	件	回
言語障害	件	回	聴覚障害	件	回
視覚障害	件	回	肢体不自由	件	回
発達障害	件	回	病弱・身体虚弱	件	回
重度・重複	件	回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒→統計をとっていません

小学生	件	回	中学生	件	回
高校生	件	回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	101 回	関係教員	7 回	本人	4 回	その他	15 回
-----	-------	------	-----	----	-----	-----	------

② 電話相談の内容別内訳 →統計をとっていません

就学・進学	回	学習・指導法	回	学校生活(対人関係等)	回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	回	情報提供	回
不登校・いじめ	回	その他	回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容			(3)成果			(4)課題		
⑤	①	③		②			⑤	⑥	
⑥	①	③		②			⑤	⑥	

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
⑤	学校の教育相談に関わる担当者等の資質向上を目指して、研修を実施し、連携の強化を図る。

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
①	担当班内で、ケース会議を行ったり、文献研究の還流を行ったりする。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
26	滋賀県総合教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	132 件	総回数	550 回
-----	-------	-----	-------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	件	回
中学生	件	回

※来所・電話を分けて集計はしていない。上記は来所・電話を合わせた数字

小学生	件	回
高校生	件	回

③ 内容別内訳

就学・進学	件	回
卒業・進路	件	回
学校生活(対人関係等)	件	回
その他	件	回

学習・指導法	件	回
養育・家庭生活	件	回
いじめ・不登校	件	回

④ 障害別内訳

知的障害	件	回
言語障害	件	回
視覚障害	件	回
発達障害	件	回
重度・重複	件	回

自閉症・情緒障害	件	回
聴覚障害	件	回
肢体不自由	件	回
病弱・身体虚弱	件	回

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	件	回
高校生	件	回

中学生	件	回
-----	---	---

※園小中高の来所・電話併せて395回

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	回	関係教員	回	本人	回	その他	回
-----	---	------	---	----	---	-----	---

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	回	学習・指導法	回	学校生活(対人関係等)	回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	回	情報提供	回
不登校・いじめ	回	その他	回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容				(3)成果				(4)課題			
②	①	②	⑥		⑤	⑨	⑪		①	⑧	⑩	
⑤	①	④	⑥	⑨	⑤	⑧	⑨	⑪	①	⑧	⑩	
⑫	①	④	⑥	⑨	⑤	⑧	⑨	⑪	①	⑧	⑩	

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1(市町の発達支援センター等) ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
⑤	相談対象児童生徒の支援につなげるため、学校との連携を強化する。教員からの相談にも応じる。

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
③	月1回の研修会で情報交換や情報共有を図っている。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機 関 名
27	京都府総合教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	3 件	総回数	78 回
-----	-----	-----	------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	0 件	0 回	小学生	2 件	66 回
中学生	0 件	0 回	高校生	1 件	12 回

③ 内容別内訳

就学・進学	0 件	0 回	学習・指導法	0 件	0 回
卒業・進路	0 件	0 回	養育・家庭生活	1 件	12 回
学校生活(対人関係等)	2 件	66 回	いじめ・不登校	0 件	0 回
その他	0 件	0 回			

④ 障害別内訳

知的障害	0 件	0 回	自閉症・情緒障害	0 件	0 回
言語障害	0 件	0 回	聴覚障害	0 件	0 回
視覚障害	0 件	0 回	肢体不自由	0 件	0 回
発達障害	3 件	78 回	病弱・身体虚弱	0 件	0 回
重度・重複	0 件	0 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	1 件	35 回	中学生	0 件	0 回
高校生	1 件	12 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	20 回	関係教員	0 回	本人	0 回	その他	1 回
-----	------	------	-----	----	-----	-----	-----

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	2 回	学習・指導法	1 回	学校生活(対人関係等)	1 回
卒業・進路	2 回	養育・家庭生活	6 回	情報提供	4 回
不登校・いじめ	3 回	その他	2 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容			(3)成果					(4)課題			
①	①	③		②	⑤	⑦	⑩		④			
②	①	⑨		②	③	⑤	⑦	⑨	②			
⑤	①	③		④	⑤	⑦	⑧	⑨	④	⑧		

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
①	各府立特別支援学校に設置の地域支援センター及び京都府スーパーサポートセンターとの必要な連携を今後もさらに強化していく。

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
④	京都府では、京都府教育支援委員会の委員として、当センターの研究主事兼指導主事が就学巡回教育相談に参加している。また、研修や会議等を通して、教育相談に必要な資質向上に努めている。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
28	大阪府教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	件	総回数	回
-----	---	-----	---

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	件	回	小学生	件	回
中学生	件	回	高校生	件	回

③ 内容別内訳

就学・進学	件	回	学習・指導法	件	回
卒業・進路	件	回	養育・家庭生活	件	回
学校生活(対人関係等)	件	回	いじめ・不登校	件	回
その他	件	回			

④ 障害別内訳

知的障害	件	回	自閉症・情緒障害	件	回
言語障害	件	回	聴覚障害	件	回
視覚障害	件	回	肢体不自由	件	回
発達障害	件	回	病弱・身体虚弱	件	回
重度・重複	件	回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	件	回	中学生	件	回
高校生	件	回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	回	関係教員	回	本人	回	その他	回
-----	---	------	---	----	---	-----	---

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	回	学習・指導法	回	学校生活(対人関係等)	回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	回	情報提供	回
不登校・いじめ	回	その他	回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容	(3)成果	(4)課題

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
29	兵庫県立特別支援教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	71 件	総回数	133 回
-----	------	-----	-------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	4 件	8 回	小学生	32 件	60 回
中学生	27 件	50 回	高校生	8 件	15 回

③ 内容別内訳

就学・進学	4 件	7 回	学習・指導法	24 件	49 回
卒業・進路	0 件	0 回	養育・家庭生活	26 件	45 回
学校生活(対人関係等)	4 件	8 回	いじめ・不登校	12 件	23 回
その他	1 件	1 回			

④ 障害別内訳

知的障害	17 件	33 回	自閉症・情緒障害	18 件	32 回
言語障害	1 件	3 回	聴覚障害	0 件	0 回
視覚障害	0 件	0 回	肢体不自由	0 件	0 回
発達障害	16 件	30 回	病弱・身体虚弱	0 件	0 回
重度・重複	0 件	0 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	30 件	56 回	中学生	23 件	43 回
高校生	7 件	13 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	165 回	関係教員	8 回	本人	3 回	その他	6 回
-----	-------	------	-----	----	-----	-----	-----

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	9 回	学習・指導法	54 回	学校生活(対人関係等)	13 回
卒業・進路	0 回	養育・家庭生活	65 回	情報提供	0 回
不登校・いじめ	28 回	その他	13 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで) ※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容				(3)成果				(4)課題				
⑤	①	⑤	⑥		④	⑤	⑩		①	⑤	⑥	⑨	
⑦	①	⑥	⑨		②	④	⑤	⑨	⑩	②	③	⑥	⑨

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
⑤	相談前の情報共有と、相談後の変化等の情報共有ができるよう、学校との連絡を密に行うための仕組みを検討する。

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
②	個人による研修参加

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機 関 名
30	奈良県教育委員会事務局特別支援教育推進室

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	49 件	総回数	64 回
-----	------	-----	------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	2 件	3 回	小学生	30 件	40 回
中学生	11 件	12 回	高校生	6 件	9 回

③ 内容別内訳

就学・進学	2 件	2 回	学習・指導法	26 件	33 回
卒業・進路	1 件	1 回	養育・家庭生活	1 件	1 回
学校生活(対人関係等)	12 件	15 回	いじめ・不登校	6 件	11 回
その他	0 件	0 回			

④ 障害別内訳

知的障害	10 件	15 回	自閉症・情緒障害	13 件	17 回
言語障害	0 件	0 回	聴覚障害	0 件	0 回
視覚障害	1 件	2 回	肢体不自由	0 件	0 回
発達障害	12 件	15 回	病弱・身体虚弱	0 件	0 回
重度・重複	0 件	0 回	不明	13件5回	

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	11 件	16 回	中学生	3 件	3 回
高校生	6 件	9 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	52 回	関係教員	151 回	本人	0 回	その他	54 回
-----	------	------	-------	----	-----	-----	------

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	13 回	学習・指導法	158 回	学校生活(対人関係等)	26 回
卒業・進路	1 回	養育・家庭生活	3 回	情報提供	30 回
不登校・いじめ	25 回	その他	1 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容			(3)成果			(4)課題		
⑧	①	③		⑤	⑧		⑧	⑩	
⑤	①	⑥	⑧	⑤	⑦	⑩	⑩		
⑥	①	③		②	⑦	⑩	④		

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
④	特別支援学校における地域支援担当者の会議を開催し、地域の課題等を共有したり、課題解決に向けた協議等を行う予定。

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
③	月に1回程度、カンファレンスを実施。事例検討を行い、教育相談担当者の資質向上を図っている。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
31	和歌山県教育センター学びの丘

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	件	総回数	回
-----	---	-----	---

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	件	回	小学生	件	回
中学生	件	回	高校生	件	回

③ 内容別内訳

就学・進学	件	回	学習・指導法	件	回
卒業・進路	件	回	養育・家庭生活	件	回
学校生活(対人関係等)	件	回	いじめ・不登校	件	回
その他	件	回			

④ 障害別内訳

知的障害	件	回	自閉症・情緒障害	件	回
言語障害	件	回	聴覚障害	件	回
視覚障害	件	回	肢体不自由	件	回
発達障害	件	回	病弱・身体虚弱	件	回
重度・重複	件	回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	件	回	中学生	件	回
高校生	件	回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	回	関係教員	回	本人	回	その他	回
-----	---	------	---	----	---	-----	---

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	回	学習・指導法	回	学校生活(対人関係等)	回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	回	情報提供	回
不登校・いじめ	回	その他	回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容	(3)成果	(4)課題

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
32	鳥取県教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	0	件
-----	---	---

総回数	0	回
-----	---	---

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	件	回	小学生	件	回
中学生	件	回	高校生	件	回

③ 内容別内訳

就学・進学	件	回	学習・指導法	件	回
卒業・進路	件	回	養育・家庭生活	件	回
学校生活(対人関係等)	件	回	いじめ・不登校	件	回
その他	件	回			

④ 障害別内訳

知的障害	件	回	自閉症・情緒障害	件	回
言語障害	件	回	聴覚障害	件	回
視覚障害	件	回	肢体不自由	件	回
発達障害	件	回	病弱・身体虚弱	件	回
重度・重複	件	回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	件	回	中学生	件	回
高校生	件	回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	0	回	関係教員	0	回	本人	0	回	その他	0	回
-----	---	---	------	---	---	----	---	---	-----	---	---

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	回	学習・指導法	回	学校生活(対人関係等)	回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	回	情報提供	回
不登校・いじめ	回	その他	回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで) ※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容	(3)成果	(4)課題

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機 関 名
33	島根県教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	150 件	総回数	1177 回
-----	-------	-----	--------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	5 件	23 回	小学生	93 件	732 回
中学生	37 件	216 回	高校生	15 件	203 回

③ 内容別内訳

就学・進学	10 件	26 回	学習・指導法	29 件	134 回
卒業・進路	15 件	187 回	養育・家庭生活	7 件	52 回
学校生活(対人関係等)	61 件	419 回	いじめ・不登校	24 件	335 回
その他	4 件	24 回			

④ 障害別内訳

知的障害	13 件	74 回	自閉症・情緒障害	34 件	483 回
言語障害	0 件	0 回	聴覚障害	1 件	6 回
視覚障害	0 件	0 回	肢体不自由	1 件	9 回
発達障害	97 件	584 回	病弱・身体虚弱	4 件	20 回
重度・重複	0 件	0 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	67 件	403 回	中学生	18 件	66 回
高校生	8 件	162 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	156 回	関係教員	88 回	本人	3 回	その他	24 回
-----	-------	------	------	----	-----	-----	------

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	21 回	学習・指導法	56 回	学校生活(対人関係等)	110 回
卒業・進路	4 回	養育・家庭生活	24 回	情報提供	11 回
不登校・いじめ	34 回	その他	11 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容				(3)成果				(4)課題			
①	①	③			①	⑤	⑧		①	⑧		
⑦	③	⑦	⑨		②	⑤	⑨	⑪				
⑧	①	③			①	⑤	⑦	⑧	①	⑧		

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
①	課題:各市町の相談体制についての共通理解 今後の方策:市町との関係機関の視察、担当者同士の連絡体制の構築

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
①	島セ浜セ合同研修会、事例研修、ケース会、搜索訓練、 資質向上研修【傾聴演習、箱庭研修、エンカウンター研修、ロールプレイ(プレイ、電話相談)など】

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機 関 名
34	岡山県総合教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	15 件	総回数	143 回
-----	------	-----	-------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	件	回	小学生	6 件	71 回
中学生	7 件	70 回	高校生	2 件	2 回

③ 内容別内訳

就学・進学	件	回	学習・指導法	1 件	12 回
卒業・進路	件	回	養育・家庭生活	1 件	3 回
学校生活(対人関係等)	11 件	110 回	いじめ・不登校	件	回
その他	2 件	18 回			

④ 障害別内訳

知的障害	件	回	自閉症・情緒障害	15 件	143 回
言語障害	件	回	聴覚障害	件	回
視覚障害	件	回	肢体不自由	件	回
発達障害	件	回	病弱・身体虚弱	件	回
重度・重複	件	回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	2 件	30 回	中学生	3 件	30 回
高校生	2 件	2 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	87 回	関係教員	2 回	本人	1 回	その他	3 回
-----	------	------	-----	----	-----	-----	-----

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	回	学習・指導法	3 回	学校生活(対人関係等)	1 回
卒業・進路	15 回	養育・家庭生活	16 回	情報提供	回
不登校・いじめ	13 回	その他	45 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容					(3)成果					(4)課題				
②	③	⑥	⑦	⑨		②	③	④			⑨				
⑤	①	⑥	⑨			⑤	⑦	⑪			②	④			
⑥	①					⑤	⑪				④				

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
②	教育相談担当者研修会の実施、外部研修への参加による自己研鑽

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
①	・様々な視点から教育相談担当者研修の内容を考え、企画・実施する。 ・担当者が事例提供をし、事例検討会を行うことで、相談の方向性を協議する。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機 関 名
35	広島県立教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	120 件	総回数	120 回
-----	-------	-----	-------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	2 件	2 回	小学生	98 件	98 回
中学生	20 件	20 回	高校生	0 件	0 回

③ 内容別内訳

就学・進学	0 件	0 回	学習・指導法	61 件	61 回
卒業・進路	0 件	0 回	養育・家庭生活	0 件	0 回
学校生活(対人関係等)	0 件	0 回	いじめ・不登校	0 件	0 回
その他	59 件	59 回			

④ 障害別内訳

知的障害	2 件	2 回	自閉症・情緒障害	4 件	4 回
言語障害	0 件	0 回	聴覚障害	0 件	0 回
視覚障害	1 件	1 回	肢体不自由	0 件	0 回
発達障害	15 件	15 回	病弱・身体虚弱	0 件	0 回
重度・重複	0 件	0 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	96 件	96 回	中学生	20 件	20 回
高校生	0 件	0 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	107 回	関係教員	0 回	本人	0 回	その他	9 回
-----	-------	------	-----	----	-----	-----	-----

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	3 回	学習・指導法	84 回	学校生活(対人関係等)	0 回
卒業・進路	1 回	養育・家庭生活	0 回	情報提供	6 回
不登校・いじめ	0 回	その他	11 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)～(4)から選択(五つまで) ※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容			(3)成果			(4)課題		
⑤	①	③	⑥	④	⑪		⑨		
⑧	①			⑤			④		
⑥	①	③	⑥	④	⑪		⑨		

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
⑤	教育相談を受ける地域、学校が偏っている。市教委単位、各学校の特別支援教育の推進を図るため、センターの支援事業を生かしていく。

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
②	様々な外部研修に、各個人で参加し、研修内容について情報共有を行っている。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
36	やまぐち総合教育支援センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	件	総回数	151	回
-----	---	-----	-----	---

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	件	0	回
中学生	件	72	回

小学生	件	34	回
高校生	件	35	回

③ 内容別内訳

就学・進学	件	回
卒業・進路	件	回
学校生活(対人関係等)	件	回
その他	件	回

学習・指導法	件	回
養育・家庭生活	件	回
いじめ・不登校	件	回

④ 障害別内訳

知的障害	2	件	2	回
言語障害	0	件	0	回
視覚障害	0	件	0	回
発達障害	9	件	70	回
重度・重複	0	件	0	回

自閉症・情緒障害	13	件	70	回
聴覚障害	0	件	0	回
肢体不自由	1	件	9	回
病弱・身体虚弱	0	件	0	回

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	件	回
高校生	件	回

中学生	件	回
-----	---	---

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	121	回	関係教員	204	回	本人	17	回	その他	73	回
-----	-----	---	------	-----	---	----	----	---	-----	----	---

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	回	学習・指導法	回	学校生活(対人関係等)	回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	回	情報提供	回
不登校・いじめ	回	その他	回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容			(3)成果					(4)課題		
⑤	①	③	⑧	④	⑤	⑦	⑧	⑩	④	⑦	⑨
⑥	①	③	⑧	④	⑤	⑦	⑧	⑩	④	⑦	⑨
⑫	①			⑤	⑨				⑧		

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1(教育委員会関係課) ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
⑤	相談者の意向を踏まえ、学校、園の組織的、主体的な相談体制に向けた取組に関する助言の在り方に苦慮

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
①	専門家による事例検討に関する研修の実施及び相談ケースに関するSVの実施

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機 関 名
37	徳島県立総合教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	10 件
-----	------

総回数	27 回
-----	------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	1 件	1 回	小学生	3 件	8 回
中学生	3 件	9 回	高校生	3 件	9 回

③ 内容別内訳

就学・進学	件	回	学習・指導法	件	回
卒業・進路	件	回	養育・家庭生活	件	回
学校生活(対人関係等)	件	回	いじめ・不登校	件	回
その他	件	回			

④ 障害別内訳

知的障害	0 件	0 回	自閉症・情緒障害	2 件	2 回
言語障害	1 件	2 回	聴覚障害	3 件	11 回
視覚障害	0 件	0 回	肢体不自由	0 件	0 回
発達障害	3 件	11 回	病弱・身体虚弱	0 件	0 回
重度・重複	0 件	0 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	件	回	中学生	件	回
高校生	件	回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	回	関係教員	回	本人	回	その他	回
-----	---	------	---	----	---	-----	---

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	回	学習・指導法	回	学校生活(対人関係等)	回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	回	情報提供	回
不登校・いじめ	回	その他	回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで) ※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容					(3)成果					(4)課題				
⑤	①	③	④	⑥	⑩	④	⑤	⑦	⑨	⑪	②	③	⑤	⑨	⑩
⑥	①	③	⑤	⑥	⑩	④	⑤	⑥	⑨	⑪	②	③	⑤	⑨	⑩
⑦	①	③	⑦	⑧	⑨	①	②	③	⑨	⑪	①	②	③		

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
②	心身に問題を持つ児童生徒に適切に対応するため、学校教育相談の理論と技法について学ぶことにより教員の相談力向上を図る。

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
④	鳴門教育大学等と連携し、ケース会議を行うなど情報交換等を行っている。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機 関 名
38	香川県教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入） ※特別支援教育に関する相談件数については非公表のため回答なし

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	件	総回数	回
-----	---	-----	---

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	件	回	小学生	件	回
中学生	件	回	高校生	件	回

③ 内容別内訳

就学・進学	件	回	学習・指導法	件	回
卒業・進路	件	回	養育・家庭生活	件	回
学校生活(対人関係等)	件	回	いじめ・不登校	件	回
その他	件	回			

④ 障害別内訳

知的障害	件	回	自閉症・情緒障害	件	回
言語障害	件	回	聴覚障害	件	回
視覚障害	件	回	肢体不自由	件	回
発達障害	件	回	病弱・身体虚弱	件	回
重度・重複	件	回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	件	回	中学生	件	回
高校生	件	回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	回	関係教員	回	本人	回	その他	回
-----	---	------	---	----	---	-----	---

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	回	学習・指導法	回	学校生活(対人関係等)	回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	回	情報提供	回
不登校・いじめ	回	その他	回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容				(3)成果				(4)課題			
⑤	③	⑦	⑩		⑨	⑪			④	⑩		
⑥	③	⑦	⑩		⑨	⑪			④	⑩		
⑧	③	⑦	⑩		⑨	⑪			④	⑩		

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
②	県障害福祉課・県教委特別支援教育課と連携しながら発達障害に関する相談対応に必要な知見を深める。

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
①	特別支援を専門とする大学教授や精神科医師を講師とする事例検討会としての所内研修を実施している。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機 関 名
39	愛媛県総合教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	51 件	総回数	147 回
-----	------	-----	-------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	1 件	1 回	小学生	39 件	112 回
中学生	7 件	30 回	高校生	4 件	4 回

③ 内容別内訳

就学・進学	2 件	8 回	学習・指導法	7 件	23 回
卒業・進路	1 件	1 回	養育・家庭生活	34 件	96 回
学校生活(対人関係等)	件	回	いじめ・不登校	7 件	19 回
その他	0 件	0 回			

④ 障害別内訳

知的障害	1 件	1 回	自閉症・情緒障害	39 件	119 回
言語障害	0 件	0 回	聴覚障害	0 件	0 回
視覚障害	0 件	0 回	肢体不自由	0 件	0 回
発達障害	件	回	病弱・身体虚弱	0 件	0 回
重度・重複	0 件	0 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	10 件	34 回	中学生	4 件	9 回
高校生	4 件	4 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	55 回	関係教員	28 回	本人	0 回	その他	5 回
-----	------	------	------	----	-----	-----	-----

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	3 回	学習・指導法	7 回	学校生活(対人関係等)	19 回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	8 回	情報提供	21 回
不登校・いじめ	4 回	その他	26 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容					(3)成果					(4)課題			
⑤	①	④	⑥	⑧	⑨	④	⑤	⑦	⑨	⑪	①	②	⑦	⑩
⑧	①	③	④			④	⑤	⑨	⑪		①	②	⑧	
⑫	①	③	④	⑥	⑧	①	②	④	⑤	⑪	②	③	⑧	

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1(相談支援事業所) ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
⑤	特別支援教育コーディネーターや学級担任等と情報共有を行い、子どもの変容に応じて、適宜、支援の方向性について合意形成を図る。

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
③	毎月、相談報告を行い、①子どもの実態、②相談員の対応、③支援の方向性について、情報交換を行っている。相談員相互にアドバイスをしたり、情報提供をしたりするなどしている。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
40	高知県教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	0 件	総回数	0 回
-----	-----	-----	-----

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	件	回	小学生	件	回
中学生	件	回	高校生	件	回

③ 内容別内訳

就学・進学	件	回	学習・指導法	件	回
卒業・進路	件	回	養育・家庭生活	件	回
学校生活(対人関係等)	件	回	いじめ・不登校	件	回
その他	件	回			

④ 障害別内訳

知的障害	件	回	自閉症・情緒障害	件	回
言語障害	件	回	聴覚障害	件	回
視覚障害	件	回	肢体不自由	件	回
発達障害	件	回	病弱・身体虚弱	件	回
重度・重複	件	回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	件	回	中学生	件	回
高校生	件	回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	0 回	関係教員	0 回	本人	0 回	その他	0 回
-----	-----	------	-----	----	-----	-----	-----

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	回	学習・指導法	回	学校生活(対人関係等)	回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	回	情報提供	回
不登校・いじめ	回	その他	回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1) 機関名	(2) 連携内容			(3) 成果			(4) 課題		
⑤	①	⑩		①	⑤		①	⑩	
⑧	①			⑤			⑨		

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
②	研修のみセンターとして行っているため、学校の相談者の専門性の向上を図る研修内容の充実。

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
⑤	教育センターとして、相談業務は実施していない。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
41	福岡県教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	3 件	総回数	3 回
-----	-----	-----	-----

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	件	回	小学生	2 件	2 回
中学生	1 件	1 回	高校生	件	回

③ 内容別内訳

就学・進学	件	回	学習・指導法	2 件	2 回
卒業・進路	件	回	養育・家庭生活	件	回
学校生活(対人関係等)	1 件	1 回	いじめ・不登校	件	回
その他	件	回			

④ 障害別内訳

知的障害	1 件	1 回	自閉症・情緒障害	件	回
言語障害	件	回	聴覚障害	件	回
視覚障害	件	回	肢体不自由	件	回
発達障害	2 件	2 回	病弱・身体虚弱	件	回
重度・重複	件	回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	1 件	1 回	中学生	件	回
高校生	件	回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	31 回	関係教員	6 回	本人	1 回	その他	8 回
-----	------	------	-----	----	-----	-----	-----

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	4 回	学習・指導法	11 回	学校生活(対人関係等)	4 回
卒業・進路	4 回	養育・家庭生活	3 回	情報提供	15 回
不登校・いじめ	3 回	その他	2 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容				(3)成果				(4)課題			
⑫	①	③	④		①	⑤	⑧		④			

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1(教育事務所) ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
①	定期的に行われる連絡会議等における教育事務所等との情報交換・情報共有

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
③	関係機関に関する情報や相談対応についての情報交換・情報共有

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
42	佐賀県教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	件	総回数	回
-----	---	-----	---

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	件	回	小学生	件	回
中学生	件	回	高校生	件	回

③ 内容別内訳

就学・進学	件	回	学習・指導法	件	回
卒業・進路	件	回	養育・家庭生活	件	回
学校生活(対人関係等)	件	回	いじめ・不登校	件	回
その他	件	回		件	回

④ 障害別内訳

知的障害	件	回	障害	件	回
言語障害	件	回		件	回
視覚障害	件	回		件	回
発達障害	件	回	弱	件	回
重度・重複	件	回		件	回

内訳等が異なるため入力不可
※ 事務局へは確認済

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	件	回	中学生	件	回
高校生	件	回		件	回

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	回	関係教員	回	本人	回	その他	回
-----	---	------	---	----	---	-----	---

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	回	学習・指導法	回	学校生活(対人関係等)	回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	回	情報提供	回
不登校・いじめ	回	その他	回		回

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)
※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容			(3)成果			(4)課題		
⑤	①	⑧		⑤	⑪		⑦		
②	①	③	⑧	②	③		⑦		
⑦	⑨	⑩		②	⑪		③		

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
②	スーパーアドバイザーとのケースカンファレンスの充実

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
①	年間5~6本の係内研修を実施

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
43	長崎県教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	4 件	総回数	6 回
-----	-----	-----	-----

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	0 件	0 回	小学生	3 件	5 回
中学生	1 件	1 回	高校生	0 件	0 回

③ 内容別内訳

就学・進学	0 件	0 回	学習・指導法	4 件	6 回
卒業・進路	0 件	0 回	養育・家庭生活	0 件	0 回
学校生活(対人関係等)	0 件	0 回	いじめ・不登校	0 件	0 回
その他	0 件	0 回			

④ 障害別内訳

知的障害	0 件	0 回	自閉症・情緒障害	0 件	0 回
言語障害	0 件	0 回	聴覚障害	0 件	0 回
視覚障害	0 件	0 回	肢体不自由	0 件	0 回
発達障害	4 件	6 回	病弱・身体虚弱	0 件	0 回
重度・重複	0 件	0 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	3 件	5 回	中学生	1 件	1 回
高校生	0 件	0 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	9 回	関係教員	28 回	本人	0 回	その他	0 回
-----	-----	------	------	----	-----	-----	-----

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	1 回	学習・指導法	9 回	学校生活(対人関係等)	1 回
卒業・進路	2 回	養育・家庭生活	0 回	情報提供	6 回
不登校・いじめ	0 回	その他	18 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで) ※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容					(3)成果					(4)課題				
⑥	①	③	④			①									
⑦	①	③	④	⑤	⑦	①	②	③	④		③				

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
①	「いじめ不登校発達障害等相談」実施協議会(当センター相談事業の連携機関である長崎大学、本庁関係各課との教育相談体制充実に向けた協議会)の設置

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
①	ケースカンファレンス、検査実施・分析に関する研修会を年間5回程度実施

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
44	熊本県立教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	0 件	総回数	0 回
-----	-----	-----	-----

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	0 件	0 回	小学生	0 件	0 回
中学生	0 件	0 回	高校生	0 件	0 回

③ 内容別内訳

就学・進学	0 件	0 回	学習・指導法	0 件	0 回
卒業・進路	0 件	0 回	養育・家庭生活	0 件	0 回
学校生活(対人関係等)	0 件	0 回	いじめ・不登校	0 件	0 回
その他	0 件	0 回			

④ 障害別内訳

知的障害	0 件	0 回	自閉症・情緒障害	0 件	0 回
言語障害	0 件	0 回	聴覚障害	0 件	0 回
視覚障害	0 件	0 回	肢体不自由	0 件	0 回
発達障害	0 件	0 回	病弱・身体虚弱	0 件	0 回
重度・重複	0 件	0 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	0 件	0 回	中学生	0 件	0 回
高校生	0 件	0 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	0 回	関係教員	0 回	本人	0 回	その他	0 回
-----	-----	------	-----	----	-----	-----	-----

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	0 回	学習・指導法	0 回	学校生活(対人関係等)	0 回
卒業・進路	0 回	養育・家庭生活	0 回	情報提供	0 回
不登校・いじめ	0 回	その他	0 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで) ※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容	(3)成果	(4)課題
本教育センターでは、相談業務は令和2年度より廃止しているため、2以降の回答はなしとします。			

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1 () ⑬その他2 ()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1 ()
⑫その他2 () ⑬その他3 ()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1 () ⑬その他2 ()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1 () ⑫その他2 () ⑬その他3 ()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
45	大分県教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	1 件	総回数	1 回
-----	-----	-----	-----

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	0 件	0 回	小学生	0 件	0 回
中学生	1 件	1 回	高校生	0 件	0 回

③ 内容別内訳

就学・進学	0 件	0 回	学習・指導法	0 件	0 回
卒業・進路	1 件	1 回	養育・家庭生活	0 件	0 回
学校生活(対人関係等)	0 件	0 回	いじめ・不登校	0 件	0 回
その他	0 件	0 回			

④ 障害別内訳

知的障害	0 件	0 回	自閉症・情緒障害	0 件	0 回
言語障害	0 件	0 回	聴覚障害	0 件	0 回
視覚障害	0 件	0 回	肢体不自由	0 件	0 回
発達障害	1 件	1 回	病弱・身体虚弱	0 件	0 回
重度・重複	0 件	0 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	0 件	0 回	中学生	1 件	1 回
高校生	0 件	0 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	9 回	関係教員	0 回	本人	0 回	その他	3 回
-----	-----	------	-----	----	-----	-----	-----

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	2 回	学習・指導法	3 回	学校生活(対人関係等)	2 回
卒業・進路	0 回	養育・家庭生活	2 回	情報提供	0 回
不登校・いじめ	3 回	その他	0 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)～(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容	(3)成果	(4)課題
①	①	①	①
②	①	①	①
⑧	①	①	⑩

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
③	・教育センターホームページの充実を図る

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
②	・研修会への参加

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機 関 名
46	宮崎県教育研修センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	件	総回数	回
-----	---	-----	---

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	件	回	小学生	件	回
中学生	件	回	高校生	件	回

③ 内容別内訳

就学・進学	件	回	学習・指導法	件	回
卒業・進路	件	回	養育・家庭生活	件	回
学校生活(対人関係等)	件	回	いじめ・不登校	件	回
その他	件	回			

④ 障害別内訳

知的障害	件	回	自閉症・情緒障害	件	回
言語障害	件	回	聴覚障害	件	回
視覚障害	件	回	肢体不自由	件	回
発達障害	件	回	病弱・身体虚弱	件	回
重度・重複	件	回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	件	回	中学生	件	回
高校生	件	回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	回	関係教員	回	本人	回	その他	回
-----	---	------	---	----	---	-----	---

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	回	学習・指導法	回	学校生活(対人関係等)	回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	回	情報提供	回
不登校・いじめ	回	その他	回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容	(3)成果	(4)課題

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域や関係機関と連携した多様なニーズに応える相談体制の在り方

機関番号	機関名
47	鹿児島県総合教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	18 件
-----	------

総回数	20 回
-----	------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	1 件	1 回	小学生	12 件	13 回
中学生	3 件	4 回	高校生	2 件	2 回

③ 内容別内訳

就学・進学	1 件	1 回	学習・指導法	7 件	8 回
卒業・進路	0 件	0 回	養育・家庭生活	0 件	0 回
学校生活(対人関係等)	9 件	10 回	いじめ・不登校	0 件	0 回
その他	1 件	1 回			

④ 障害別内訳

知的障害	1 件	2 回	自閉症・情緒障害	2 件	2 回
言語障害	0 件	0 回	聴覚障害	0 件	0 回
視覚障害	0 件	0 回	肢体不自由	1 件	1 回
発達障害	1 件	1 回	病弱・身体虚弱	0 件	0 回
重度・重複	0 件	0 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	10 件	11 回	中学生	2 件	2 回
高校生	2 件	2 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	81 回	関係教員	14 回	本人	回	その他	6 回
-----	------	------	------	----	---	-----	-----

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	18 回	学習・指導法	13 回	学校生活(対人関係等)	27 回
卒業・進路	2 回	養育・家庭生活	2 回	情報提供	0 回
不登校・いじめ	6 回	その他	33 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで) ※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容					(3)成果					(4)課題				
⑤	①	③	④	⑥	⑨	①	②	④	⑧	⑨	④	⑩			
②	①	②	③	④		①	②	③	⑦	⑪	④	⑥			

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
④	・関係相談機関による連絡会や情報交換会、相談会をそれぞれ年1回実施している。

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
①	・センター連携大学事業の一環として、大学のスーパーバイザーによる研修会を、年間で12回実施している。また、事例研究会を年間で2回実施している。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機 関 名
48	沖縄県立総合教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	23 件	総回数	25 回
-----	------	-----	------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	0 件	0 回	小学生	14 件	15 回
中学生	4 件	5 回	高校生	4 件	4 回

③ 内容別内訳

就学・進学	0 件	0 回	学習・指導法	1 件	1 回
卒業・進路	2 件	2 回	養育・家庭生活	2 件	2 回
学校生活(対人関係等)	4 件	4 回	いじめ・不登校	4 件	5 回
その他	10 件	11 回			

④ 障害別内訳

知的障害	1 件	1 回	自閉症・情緒障害	0 件	0 回
言語障害	0 件	0 回	聴覚障害	0 件	0 回
視覚障害	0 件	0 回	肢体不自由	0 件	0 回
発達障害	4 件	4 回	病弱・身体虚弱	0 件	0 回
重度・重複	0 件	0 回	その他	18件	20回

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	13 件	14 回	中学生	1 件	1 回
高校生	4 件	4 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	34 回	関係教員	41 回	本人	0 回	その他	0 回
-----	------	------	------	----	-----	-----	-----

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	12 回	学習・指導法	3 回	学校生活(対人関係等)	23 回
卒業・進路	2 回	養育・家庭生活	2 回	情報提供	5 回
不登校・いじめ	15 回	その他	39 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで) ※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容				(3)成果				(4)課題			
①	①	③	⑩		①	⑤	⑨		⑧			
⑤	①	⑥	⑨		④	⑦	⑧	⑪	⑦			
⑥	①	③	⑥		②	⑤	⑧	⑪	④			

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
①	適切な相談対応をするための情報整理 他機関との顔を合わせた連携

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
④	施設・事業所・医療機関等の訪問や見学を通じた情報交換

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機 関 名
49	千葉県養護教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	1541 件	総回数	5061 回
-----	--------	-----	--------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	383 件	- 回	小学生	934 件	- 回
中学生	224 件	- 回	高校生	0 件	0 回

③ 内容別内訳

就学・進学	383 件	848 回	学習・指導法	402 件	1468 回
卒業・進路	111 件	318 回	養育・家庭生活	114 件	373 回
学校生活(対人関係等)	343 件	1270 回	いじめ・不登校	138 件	- 回
その他	143 件	613 回			

④ 障害別内訳

知的障害	292 件	- 回	自閉症・情緒障害	- 件	- 回
言語障害	60 件	- 回	聴覚障害	1 件	- 回
視覚障害	2 件	- 回	肢体不自由	7 件	- 回
発達障害	955 件	- 回	病弱・身体虚弱	3 件	- 回
重度・重複	0 件	- 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	932 件	- 回	中学生	225 件	- 回
高校生	0 件	- 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	770 回	関係教員	974 回	本人	1 回	その他	156 回
-----	-------	------	-------	----	-----	-----	-------

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	228 回	学習・指導法	155 回	学校生活(対人関係等)	127 回
卒業・進路	82 回	養育・家庭生活	129 回	情報提供	- 回
不登校・いじめ	- 回	その他	1171 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで) ※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容					(3)成果					(4)課題				
③	①	②	③	⑧		①	⑤	⑥	⑦	⑪	⑥	⑦	⑧	⑨	
⑤	①	③	⑥	⑦	⑨	⑤	⑥	⑦	⑧	⑪	⑦	⑧	⑨		
⑥	①	③	⑧			⑤	⑥	⑦	⑧	⑪	⑦	⑧	⑨		

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
②	指導主事研修、教育相談員研修を計画的に行い、資質向上を図る。

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
①	教育相談の基本、就学相談のあり方、福祉サービスの理解、いじめや不登校対策の実際等

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機 関 名
50	川崎市総合教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	1613 件	総回数	5640 回
-----	--------	-----	--------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	687 件	687 回	小学生	件	564 回
中学生	件	82 回	高校生	0 件	0 回

③ 内容別内訳

就学・進学	687 件	735 回	学習・指導法	件	172 回
卒業・進路	件	21 回	養育・家庭生活	件	16 回
学校生活(対人関係等)	件	36 回	いじめ・不登校	件	114 回
その他	件	16 回			

④ 障害別内訳

知的障害	件	158 回	自閉症・情緒障害	件	316 回
言語障害	件	6 回	聴覚障害	件	1 回
視覚障害	件	0 回	肢体不自由	件	2 回
発達障害	件	119 回	病弱・身体虚弱	件	0 回
重度・重複	件	0 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	件	回	中学生	件	回
高校生	件	回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	289 回	関係教員	回	本人	31 回	その他	76 回
-----	-------	------	---	----	------	-----	------

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	100 回	学習・指導法	44 回	学校生活(対人関係等)	70 回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	84 回	情報提供	0 回
不登校・いじめ	75 回	その他	19 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容				(3)成果				(4)課題				
⑤	①				④	⑤	⑥	⑪	②	④	⑥	⑦	⑧
④	①				②				②	④			
③	①				③				②	④	⑤		

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
⑥	相談件数の増加(就学相談、特別支援学級への入級相談(転入を含む)、一般相談)、学校の相談支援体制と相談室の在り方の検討

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
①	所内・部外研修への参加を実施し、ファーストキャリアを支援できるように工夫している。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機 関 名
51	横浜市特別支援教育総合センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	件	総回数	5261	回
-----	---	-----	------	---

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	件	2634	回	小学生	件	2245	回
中学生	件	382	回	高校生	件	0	回

③ 内容別内訳

就学・進学	件	回	学習・指導法	件	回
卒業・進路	件	回	養育・家庭生活	件	回
学校生活(対人関係等)	件	回	いじめ・不登校	件	回
その他	件	回			

④ 障害別内訳

知的障害	件	1346	回	自閉症・情緒障害	件	1822	回
言語障害	件	339	回	聴覚障害	件	32	回
視覚障害	件	14	回	肢体不自由	件	115	回
発達障害	件	1352	回	病弱・身体虚弱	件	6	回
重度・重複	件		回				

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	件	回	中学生	件	回
高校生	件	回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	回	関係教員	回	本人	回	その他	回
-----	---	------	---	----	---	-----	---

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	回	学習・指導法	回	学校生活(対人関係等)	回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	回	情報提供	回
不登校・いじめ	回	その他	回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで) ※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容					(3)成果					(4)課題				
③	①	③	⑧	⑪		⑤	⑥				⑥	⑪			
④	①	③	⑧	⑪		⑤	⑥				⑥	⑪			
⑨	①	③	⑧			⑤	⑥				⑥	⑪			

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1(検査結果共有)
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1(家庭支援) ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
③	就学相談説明動画の作成・公開、学校向けの情報提供のための機関誌発行

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
①	年間を通じた計画的な研修の実施

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
52	名古屋市教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	465 件	総回数	904 回
-----	-------	-----	-------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	31 件	51 回	小学生	374 件	734 回
中学生	55 件	109 回	高校生	5 件	10 回

③ 内容別内訳

就学・進学	9 件	10 回	学習・指導法	440 件	878 回
卒業・進路	0 件	0 回	養育・家庭生活	0 件	0 回
学校生活(対人関係等)	0 件	0 回	いじめ・不登校	0 件	0 回
その他	16 件	16 回			

④ 障害別内訳

知的障害	11 件	21 回	自閉症・情緒障害	5 件	8 回
言語障害	11 件	12 回	聴覚障害	2 件	3 回
視覚障害	4 件	4 回	肢体不自由	0 件	0 回
発達障害	93 件	184 回	病弱・身体虚弱	0 件	0 回
重度・重複	0 件	0 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	350 件	687 回	中学生	53 件	105 回
高校生	3 件	6 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	508 回	関係教員	359 回	本人	0 回	その他	1 回
-----	-------	------	-------	----	-----	-----	-----

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	51 回	学習・指導法	798 回	学校生活(対人関係等)	0 回
卒業・進路	2 回	養育・家庭生活	0 回	情報提供	1 回
不登校・いじめ	0 回	その他	16 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容				(3)成果				(4)課題			
③	①	⑩			⑤	⑨			⑧			
⑤	①	⑥	⑩		⑤	⑨			⑥	⑧		
⑥	①	⑥	⑩		⑤	⑨			⑥	⑧		

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
⑥	心理検査の申し込みが年々増加の傾向にあり、約3カ月待機しなくてはならない状況が続いている。療育センターにおいても同様である。センターでは相談員の増員を検討している。

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
①	月1回を原則にして、心理検査の結果分析やフィードバック等について、嘱託の臨床心理士を講師とした研修を実施している。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機 関 名
53	京都市教育委員会事務局指導部総合育成支援課

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	0 件
-----	-----

総回数	0 回
-----	-----

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	件	回	小学生	件	回
中学生	件	回	高校生	件	回

③ 内容別内訳

就学・進学	件	回	学習・指導法	件	回
卒業・進路	件	回	養育・家庭生活	件	回
学校生活(対人関係等)	件	回	いじめ・不登校	件	回
その他	件	回			

④ 障害別内訳

知的障害	件	回	自閉症・情緒障害	件	回
言語障害	件	回	聴覚障害	件	回
視覚障害	件	回	肢体不自由	件	回
発達障害	件	回	病弱・身体虚弱	件	回
重度・重複	件	回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	件	回	中学生	件	回
高校生	件	回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	69 回	関係教員	0 回	本人	7 回	その他	23 回
-----	------	------	-----	----	-----	-----	------

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	14 回	学習・指導法	9 回	学校生活(対人関係等)	4 回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	14 回	情報提供	回
不登校・いじめ	14 回	その他	44 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容			(3)成果			(4)課題		
⑥	①	③	⑥	④	⑤	⑧	⑥		

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
③	電話相談の電話番号をリーフレットやホームページ等で周知している。

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
③	相談内容をデータ化し、どのような相談があったか確認できるようにしている。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機 関 名
54	大阪市教育委員会事務局指導部インクルーシブ教育推進室

※機関番号、機関名は、本シートの入力次第が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数	総件数 455 件	総回数 1538 回
-----------------	-----------	------------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	件	回	小学生	395 件	回
中学生	60 件	回	高校生	件	回

③ 内容別内訳

就学・進学	件	回	学習・指導法	261 件	回
卒業・進路	6 件	回	養育・家庭生活	件	回
学校生活(対人関係等)	10 件	回	いじめ・不登校	38 件	回
その他	140 件	回			

④ 障害別内訳

知的障害	件	回	自閉症・情緒障害	件	回
言語障害	件	回	聴覚障害	件	回
視覚障害	件	回	肢体不自由	件	回
発達障害	件	回	病弱・身体虚弱	件	回
重度・重複	件	回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	316 件	回	中学生	35 件	回
高校生	件	回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳	保護者	回	関係教員	回	本人	回	その他	回
--------------	-----	---	------	---	----	---	-----	---

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	回	学習・指導法	回	学校生活(対人関係等)	回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	回	情報提供	回
不登校・いじめ	回	その他	回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)～(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1) 機関名	(2) 連携内容					(3) 成果					(4) 課題			
④	①	③	⑥	⑩	⑪	①	④	⑤	⑪	⑫	②	③	④	⑥
⑤	①	③	④	⑤	⑨	⑧	⑨	⑪	⑫		③	④		
⑫	①	③	⑧	⑪		①	④	⑤	⑧	⑪	④	⑧		

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
- ④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
- ⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
- ⑫その他1(各区分保健福祉センター) ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
- ⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1(検査結果の情報提供)
- ⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
- ④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
- ⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
- ⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1(児童虐待対応) ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
- ④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
- ⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
- ⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
③	大阪市の教育相談はこども青少年局に移管されており、教育委員会事務局の事業から外れている。そのため、事務局との連携はあるが、学校現場からは児童相談所の業務と区別がつきにくく、混乱が生じることがある。学校現場への情報発信の内容・方法について検討したい。

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
- ④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
- ⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
①	特別支援教育については大学教員等の専門家を講師とした相談員研修会を年3回実施。特別支援教育に限らない取組では、臨床心理学の専門家によるケース検討会議を年9回実施。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
55	広島市教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	0 件	総回数	0 回
-----	-----	-----	-----

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	件	回	小学生	件	回
中学生	件	回	高校生	件	回

③ 内容別内訳

就学・進学	件	回	学習・指導法	件	回
卒業・進路	件	回	養育・家庭生活	件	回
学校生活(対人関係等)	件	回	いじめ・不登校	件	回
その他	件	回			

④ 障害別内訳

知的障害	件	回	自閉症・情緒障害	件	回
言語障害	件	回	聴覚障害	件	回
視覚障害	件	回	肢体不自由	件	回
発達障害	件	回	病弱・身体虚弱	件	回
重度・重複	件	回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	件	回	中学生	件	回
高校生	件	回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	回	関係教員	回	本人	回	その他	回
-----	---	------	---	----	---	-----	---

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	回	学習・指導法	回	学校生活(対人関係等)	回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	回	情報提供	回
不登校・いじめ	回	その他	回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容	(3)成果	(4)課題

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
56	北九州市立特別支援教育相談センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	689 件	総回数	754 回
-----	-------	-----	-------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	156 件			小学生	483 件		
中学生	50 件			高校生	0 件		

③ 内容別内訳

就学・進学	10 件			学習・指導法	153 件		
卒業・進路				養育・家庭生活	7 件		
学校生活(対人関係等)	482 件			いじめ・不登校	32 件		
その他	6 件						

④ 障害別内訳

知的障害				自閉症・情緒障害			
言語障害				聴覚障害			
視覚障害				肢体不自由			
発達障害				病弱・身体虚弱			
重度・重複							

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	483 件			中学生	50 件		
高校生	0 件						

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	50 回	関係教員	0 回	本人	0 回	その他	
-----	------	------	-----	----	-----	-----	--

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学		学習・指導法		学校生活(対人関係等)	20 回
卒業・進路		養育・家庭生活		情報提供	30 回
不登校・いじめ		その他			

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで) ※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1) 機関名	(2) 連携内容					(3) 成果					(4) 課題				
③	①	②				①	②	③	⑤	⑪	⑤	⑥			
⑤	①	⑥	⑨			④	⑤	⑦	⑧	⑪	②	④	⑧	⑩	
⑥	①	③	⑦	⑧		①	②	④	⑤	⑧	②	③	④	⑧	

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
②	児童生徒の実態が多様化しているため、相談の中で実態を適切に見取り、具体的な支援の内容や方法を提案することが困難なケースが増えている。

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
②	勤務時間内で研修に参加できるように、オンライン研修などを有効活用できるとよい。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
57	福岡市教育委員会発達教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	300 件	総回数	1250 回
-----	-------	-----	--------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	0 件	0 回	小学生	257 件	1075 回
中学生	42 件	173 回	高校生	1 件	2 回

③ 内容別内訳

就学・進学	0 件	0 回	学習・指導法	261 件	1071 回
卒業・進路	17 件	34 回	養育・家庭生活	20 件	139 回
学校生活(対人関係等)	2 件	6 回	いじめ・不登校	0 件	0 回
その他	0 件	0 回			

④ 障害別内訳

知的障害	15 件	55 回	自閉症・情緒障害	54 件	185 回
言語障害	27 件	261 回	聴覚障害	4 件	34 回
視覚障害	5 件	18 回	肢体不自由	1 件	1 回
発達障害	194 件	696 回	病弱・身体虚弱	0 件	0 回
重度・重複	0 件	0 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	216 件	892 回	中学生	33 件	129 回
高校生	0 件	0 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	238 回	関係教員	271 回	本人	1 回	その他	0 回
-----	-------	------	-------	----	-----	-----	-----

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	287 回	学習・指導法	45 回	学校生活(対人関係等)	12 回
卒業・進路	2 回	養育・家庭生活	15 回	情報提供	135 回
不登校・いじめ	10 回	その他	4 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容					(3)成果					(4)課題			
⑤	①	⑧	⑨	⑩		⑤	⑦	⑧	⑨	⑪	④	⑥	⑦	⑨
④	①	⑧				②	④	⑤	⑪		③			
②	①	②				③	⑤				⑤	⑦		

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
⑤	本人・保護者と学校との具体的な支援内容の合意形成

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
④	関係機関と連携した多職種の研修

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
58	静岡市特別支援教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

大変申し訳ありませんが
相談に関して、詳細な統計を取っておりません。

件数	回
----	---

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	件	回
中学生	件	回

総数 1375件

件数	回
----	---

③ 内容別内訳

就学・進学	件	回
卒業・進路	件	回
学校生活(対人関係等)	件	回
その他	件	回

うち

幼児 1029件

学齢 346件

件数	回
----	---

いじめ・不登校	件	回
---------	---	---

④ 障害別内訳

知的障害	件	回
言語障害	件	回
視覚障害	件	回
発達障害	件	回
重度・重複	件	回

自閉症・情緒障害	件	回
聴覚障害	件	回
肢体不自由	件	回
病弱・身体虚弱	件	回

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	件	回
高校生	件	回

中学生	件	回
-----	---	---

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	回	関係教員	回	本人	回	その他	回
-----	---	------	---	----	---	-----	---

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	回	学習・指導法	回	学校生活(対人関係等)	回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	回	情報提供	回
不登校・いじめ	回	その他	回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容					(3)成果					(4)課題				
①	①	⑦	⑨	⑩		①	②	⑥	⑨	⑩	④				
④	①	③	⑥	⑩		①	②	⑤	⑥		⑦				

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
- ④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
- ⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
- ⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
- ⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
- ⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
- ④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
- ⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
- ⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
- ④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
- ⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
- ⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
- ④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
- ⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
59	浜松市教育総合支援センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	200 件	総回数	486 回
-----	-------	-----	-------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	16 件	20 回	小学生	75 件	196 回
中学生	109 件	270 回	高校生	0 件	0 回

③ 内容別内訳

就学・進学	6 件	12 回	学習・指導法	23 件	86 回
卒業・進路	8 件	10 回	養育・家庭生活	6 件	22 回
学校生活(対人関係等)	67 件	187 回	いじめ・不登校	85 件	157 回
その他	5 件	12 回			

④ 障害別内訳

知的障害	18 件	55 回	自閉症・情緒障害	25 件	73 回
言語障害	2 件	2 回	聴覚障害	0 件	0 回
視覚障害	0 件	0 回	肢体不自由	0 件	0 回
発達障害	26 件	54 回	病弱・身体虚弱	0 件	0 回
重度・重複	0 件	0 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	63 件	148 回	中学生	66 件	154 回
高校生	0 件	0 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	168 回	関係教員	289 回	本人	0 回	その他	32 回
-----	-------	------	-------	----	-----	-----	------

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	16 回	学習・指導法	23 回	学校生活(対人関係等)	35 回
卒業・進路	9 回	養育・家庭生活	13 回	情報提供	234 回
不登校・いじめ	157 回	その他	2 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)～(4)から選択(五つまで)

※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容			(3)成果			(4)課題		
⑤	①	③	⑥	①	⑤	⑪	⑧	⑨	
②	①	②	③	⑥	②	③	⑤	⑪	⑤
⑤	①	③	⑥		①	⑤	⑪	⑧	⑨

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
- ④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
- ⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
- ⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
- ⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
- ⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
- ④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
- ⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
- ⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
- ④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
- ⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
- ⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
②	相談員の専門性・資質向上のため、定期的な研修が必要

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
- ④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
- ⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
④	関係機関が学校訪問して見えてきた課題をオンラインのケース会などを通して学校・教育委員会(教育総合支援センター)・関係機関が情報共有し、解決策を話し合った。

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機 関 名
60	新潟市立総合教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	0 件
-----	-----

総回数	0 回
-----	-----

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	0 件	0 回	小学生	0 件	0 回
中学生	0 件	0 回	高校生	0 件	0 回

③ 内容別内訳

就学・進学	0 件	0 回	学習・指導法	0 件	0 回
卒業・進路	0 件	0 回	養育・家庭生活	0 件	0 回
学校生活(対人関係等)	0 件	0 回	いじめ・不登校	0 件	0 回
その他	0 件	0 回			

④ 障害別内訳

知的障害	0 件	0 回	自閉症・情緒障害	0 件	0 回
言語障害	0 件	0 回	聴覚障害	0 件	0 回
視覚障害	0 件	0 回	肢体不自由	0 件	0 回
発達障害	0 件	0 回	病弱・身体虚弱	0 件	0 回
重度・重複	0 件	0 回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	0 件	0 回	中学生	0 件	0 回
高校生	0 件	0 回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	0 回	関係教員	0 回	本人	0 回	その他	0 回
-----	-----	------	-----	----	-----	-----	-----

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	0 回	学習・指導法	0 回	学校生活(対人関係等)	0 回
卒業・進路	0 回	養育・家庭生活	0 回	情報提供	0 回
不登校・いじめ	0 回	その他	0 回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで) ※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1)機関名	(2)連携内容	(3)成果	(4)課題

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他

第46回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（愛媛県大会）聴取事項調査票

第1分科会
教育相談に関する事項
地域の現状に応じた相談支援体制の課題と工夫

機関番号	機関名
61	相模原市 教育センター

※機関番号、機関名は、本シートの入力が入力が第2分科会以降に反映されます

1 教育相談の現状について（令和3年度実績を記入）

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績

① 来所相談の総件数及び総回数

総件数	270 件	総回数	300 回
-----	-------	-----	-------

② 対象別内訳

幼児・新学齢児	248 件	263 回	小学生	20 件	35 回
中学生	2 件	2 回	高校生	件	回

③ 内容別内訳

就学・進学	270 件	300 回	学習・指導法	件	回
卒業・進路	件	回	養育・家庭生活	件	回
学校生活(対人関係等)	件	回	いじめ・不登校	件	回
その他	件	回			

④ 障害別内訳

知的障害	109 件	120 回	自閉症・情緒障害	135 件	145 回
言語障害	件	回	聴覚障害	件	回
視覚障害	件	回	肢体不自由	14 件	15 回
発達障害	件	回	病弱・身体虚弱	3 件	5 回
重度・重複	件	回			

⑤ 来所相談に占める通常の学級に在籍する児童生徒

小学生	9 件	15 回	中学生	件	回
高校生	件	回			

(2) 特別支援教育に関する電話相談実績

① 電話相談の対象別内訳

保護者	382 回	関係教員	回	本人	回	その他	回
-----	-------	------	---	----	---	-----	---

② 電話相談の内容別内訳

就学・進学	382 回	学習・指導法	回	学校生活(対人関係等)	回
卒業・進路	回	養育・家庭生活	回	情報提供	回
不登校・いじめ	回	その他	回		

2 教育相談において連携している主な機関を(1)から三つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)~(4)から選択(五つまで) ※各欄で、ドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(1) 機関名	(2) 連携内容					(3) 成果					(4) 課題			
②	②	③				③	⑥				⑤	⑥		
③	①	⑥	⑧			①	②	⑤	⑥	⑪	②	④	③	⑥
⑥	①	③	⑥	⑧	⑨	②	④	⑤	⑥	⑦	②	③	⑥	

(1) 機関名

- ①発達障害者支援センター ②医療機関(医療センター等を含む。) ③療育センター
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター) ⑤学校園(保幼小中高義務教育学校等) ⑥特別支援学校
⑦大学・大学附属機関 ⑧市町村教育委員会 ⑨保健所・保健センター ⑩精神保健福祉センター ⑪ハローワーク
⑫その他1() ⑬その他2()

(2) 連携内容

- ①情報交換・情報共有 ②医療的診断 ③相談連携 ④支援依頼 ⑤検査依頼 ⑥支援内容・方法の検討
⑦事例検討会 ⑧支援会議 ⑨指導・助言 ⑩研修協力 ⑪その他1()
⑫その他2() ⑬その他3()

(3) 成果

- ①他機関との円滑な連携が可能 ②より専門的な相談の実施 ③医療的な視点からの相談
④支援対象や支援内容の幅の拡大 ⑤情報収集や情報共有 ⑥就学相談の推進 ⑦支援の継続が可能
⑧学校・地域に密着した支援 ⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上 ⑩就労率の向上
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化 ⑫その他1() ⑬その他2()

(4) 課題

- ①関連機関との連携 ②検討・協議時間の不足 ③関連機関との日程調整
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方 ⑤連携できる医療機関・診断機関の不足 ⑥件数増加による対応
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む。) ⑧役割分担の明確化 ⑨継続的な相談 ⑩関係職員の専門性
⑪その他1() ⑫その他2() ⑬その他3()

3 教育相談の連携における課題・センターとしての今後の方策を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

課題・方策	具体的な内容
④	就学から就労を見据えた一貫した支援ができる体制づくりや関係機関との連携

(1) 課題・方策

- ①他機関との連携の推進・強化 ②相談担当者の専門性の向上 ③理解啓発・情報発信の充実
④関係機関との連携のためのシステム作り、地域の支援ネットワークの構築
⑤学校等との連携 ⑥その他

4 教育相談担当者の資質向上の取組を(1)から一つ選択し、その具体的な内容を記入

取組	具体的な内容
③	日常的な情報共有に加え、お互いの専門性を生かした連携や学び合いの充実

(1) 取組

- ①所内研修の実施 ②外部研修への参加 ③相談員同士の情報交換 ④関係機関との情報交換 ⑤その他